# 皇 學 館 大 学
# ボランティアルーム

# 平成29年度 活動報告書

# 目　　次


担当教員挨拶 …… 1

代表あいさつ …… 2

１．コーディネート状況報告

・平成 29 年度ボランティアルームコーディネート活動報告 …… 5

２．ボランティアルーム企画・活動報告

・HELLO ボランティア　活動報告 …… 13

・mini ボランティア体験　活動報告 …… 17

・ちょこっと福祉体験　活動報告 …… 21

・サマースクール　活動報告 …… 25

・「老人ホームで Let`e 文化祭」　活動報告 …… 29

・他大学視察　活動報告 …… 32

・倉陵祭模擬店　活動報告 …… 37

・伊勢市ボランティアセンターフェスティバル　活動報告 …… 41

・ＣＣＣとコラボ　in 伊勢　活動報告（他大学来校） …… 44

・季刊誌　活動報告 …… 50

３．アンケート報告

・平成 29 年度メール登録者対象アンケート報告 …… 57

４．資料

・平成 29 年度　年間スケジュール …… 67

・平成 29 年度　ボランティア募集一覧 …… 68

・平成 29 年度　ボランティアルーム学生スタッフ一覧 …… 71

# 平成29年度のふりかえり

ボランティルーム担当教員
教育学部　叶　俊文

先ずは 4 年生が一人という状況で、ボランティアルームを支えてくれた河口さんに感謝したい。この学年も 1 年生のころはたくさんスタッフがいたように思い出されるが、最後は一人ということになってしまった。そこをしっかり持ちこたえてくれたことと、サポートした下級生の頑張りが、この一年を物語っているように感じている。

今年度は早めに2年生にボランティアルームとしての意識を目覚めさせることを考えて、中心になるリーダーに2年生を加えた。リーダーミーティングでも様々な意見が交わされ、そこに2年生の意見も反映されるようにしてくれたようだ。リーダーミーティング後には、私のところに来て内容を話してくれた。この話し合いで私が感じていることも伝えることができたし、私の思いも伝えることができたように思う。

その中で伝えたことの一つに「ボランティアルームの創設の思い」も含まれている。4年生が一人ということで、これまでに繋がってきたその「思い」が途切れてしまうのではないかと不安になったからである。それを繋ぎとめていくのが、毎年刊行している「ボランティアルーム活動報告書」になるだろう。ボランティアルームには創設期からの活動報告書が保管されている。今年は、事あるごとに「以前の報告書を読んでみなさい。」と伝えていたように思う。特に、2年生には言っていたように思っている。なぜなら、人数も2年生が多く、これからのボランティアルームを支えていくのが 2 年生になると感じていたからになる。果たして、どれぐらい繋がったのであろうか。

今年度もコーディネートを中心に、様々な企画が展開された。その中で出てきている反省は「スタッフ間のコミュニケーション不足」であったように感じている。ボランティアに携わろうとしている学生諸君が、コミュニケーション不足を問題にしていたら話しにならない。「ボランティアに行きたい」とやって来る学生と、どんな話をしているのだろうかと疑問に思ってしまう。こうした反省が「繋がり」と関係していないとも限らない。数年前の学生スタッフがどんな思いでコーディネートをしていたのか。考える時期に来ているように感じる。それが依頼件数の減少やコーディネート率の減少へと繋がっていないのだろうか。

まだまだボランティアルームの第 2 ステージに入っていけないよう感じる。第 2 ステージに入っていくためにも、何を繋いでいかなければならないのか、何を新たに加えていかなければならないのかを話し合ってもらいたいものだ。そんなミーティングがあっても良いのではないだろうか。先輩たちの思いを右手で握り、後輩たちの手を左手で押さえながら踏ん張った河口さんの役目を、多くの下級生が感じてくれればと願っている。そのためにもコミュニケーションをとっていきましょう、

# Step by step

皇學館大学ボランティアルーム学生スタッフ
文学部コミュニケーション学科４年
河口比加理

皇學館大学社会福祉学部（名張学舎）で発足したボランティアルームを伊勢学舎に根付かせてくれた先輩方の卒業により、昨年度ボランティアルームは大きな節目を迎えた。偉大な先輩方が残してくれたボランティアルームの歴史を止めてはいけないという想いを持ち活動した。そしてボランティアルームをさらに進化させ、“次のステージへ”進むため新しいことにも挑戦した。

大きな節目を迎えてから一年経ち、今年度は、最高学年の学生スタッフが一人という体制で活動が始まった。次のステージへ進み始めたボランティアルームを衰退させてはならず、さらに進化させていかなければならないという想いを持ち活動が始まった。活動の全体を見ると“初動の遅れ”が目立った一年であった。しかし、活動の一つ一つに目を向けると、つまずいたら一度立ち止まり考え、暗中模索しながら徐々に進化していく姿を見ることができた。このようにスピード感はないが、一歩一歩を確実に進めていくことも現在のボランティアルームにとって大切なことであると考えている。

今年度は、特に二年生の学生スタッフがボランティアルームの活動を広げるために考え、実際に行動に移せるように成長した。またボランティアルームの活動をまずは身近な友人から広めていこうという二年生の姿勢は、二年前に先輩スタッフが伝えてくれた“ボランティアの良さを伝え、一人でも多くの仲間を増やす”というボランティアルームの原点を自然と受け継いでいるように感じた。この先ボランティアルームを守っていく時間が多く残されている二年生が、ボランティアルームの歴史を後輩に引き継いでいき、さらに自分たちのカラーも出していくことで、今後ボランティアルームが進化し成長し続けていくことを期待している。

この一年は、最高学年の学生スタッフが一人という状況に多少戸惑いを感じながらスタートしたが、新しいステージに進んだボランティアルームをさらに進化させなければならないという想いを持って、それぞれが努力することで少しずつ成長していった。その中で、一人の力ではどうにもならないことがあると感じた学生スタッフも多かったのではないかと考えている。今後さらにボランティアルームを進化させるためには、今年度の活動で一人一人がつけた力を集束させ、ボランティアルームとしての一つの大きな力に変えていくことが大切になるだろう。

最後になりましたが、ボランティアの依頼や受け入れをしてくださったボランティア関係者の皆様に教職員とともに心より感謝申し上げます。どうか、今後とも変わらぬご支援・ご協力をよろしくお願いします。

# 1. コーディネート状況報告

平成29年度ボランティアルームコーディネート　活動報告

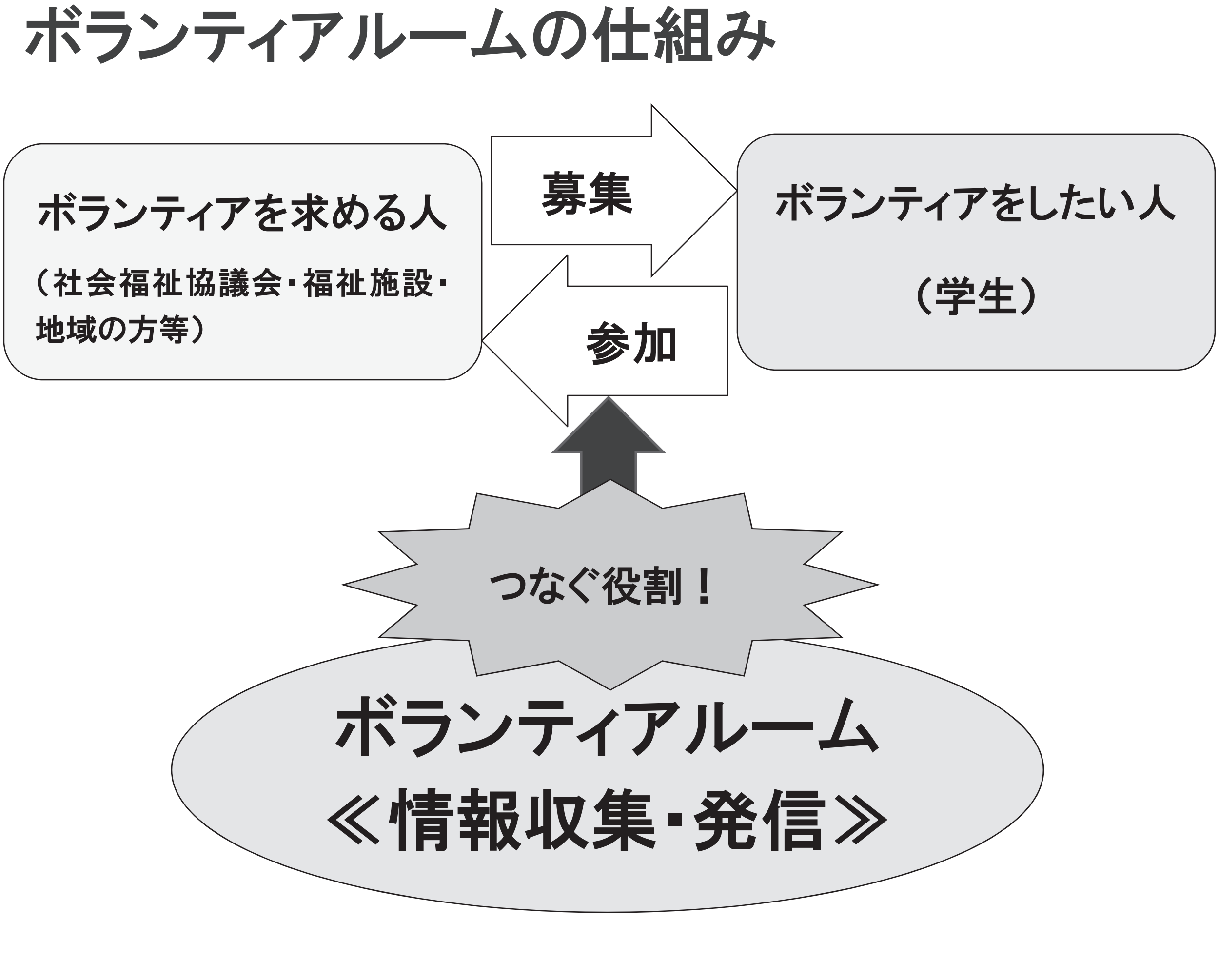
1　目的

　皇學館大学ボランティアルームでは、学生のボランティア活動の支援を学生スタッフが担っており、ボランティアコーディネートを第一に考え活動を行っている。そこで、ボランティアコーディネートについて今年度の活動を報告する。

2　活動内容

　ボランティアコーディネーターとしての学生スタッフの活動は、地域から依頼されるボランティアを受け付け、学生にボランティア情報を提供し、地域と学生を繋ぐことである。

　学生へのボランティア情報提供の方法は、主に2号館1階ボランティアルーム横と6号館1階の掲示板への掲示、メール登録者へのメール配信である。その他にもTwitterや、昨年度から継続して行っている月別ボランティアを用いて情報発信をするとともに参加促進をねらっている。



ボランティアコーディネートを学生スタッフが行うことにより、学生のボランティアへの参加をより促すことができると考える。学生スタッフがボランティアコーディネートを行うにあたって、気を付けなければならないことがある。それは、地域と学生の関係を対等かつ互いが成長できる関係へと調整することである。円滑にコーディネートを行うために、学生スタッフ一人ひとりがボランティア先との連絡を取り合うことの責任や意識を持ち取り組んでいく必要がある。

３　コーディネート状況

今年度、地域から依頼されたボランティア情報件数は115件(随時募集ボランティア含む)であり、コーディネート件数は38件であった。コーディネート人数は、のべ238人になる。コーディネート件数は昨年より2件増、コーディネート人数は昨年より53人増と右肩上がりである。しかし、皇學館大学は約3000人の学生が在籍しているので、約12人に1人という低い割合でのボランティア参加となっている。また、同じ学生が複数のボランティアに参加していることから参加の実人数はもっと少ないことになる。これらのことから、ボランティアに参加する学生はまだ多いとは言えない。内訳は以下の通りである。

| ボランティア総件数 | コーディネート件数 | コーディネート人数 |
|---|---|---|
| 115件 | 38件 | 238人 |

ボランティアルームでは下記のように依頼されたボランティアを 3 つのジャンルに分け情報を発信している。

① 福祉系：高齢者施設、障がい者（児）、福祉競技スタッフなど
② 地域援助：地域イベント、災害地域援助活動、コンサートスタッフなど
③ 子どもサポート：託児補助、特別支援学級活動、子ども対象イベントスタッフなど

3ジャンルのボランティア情報件数は次の通りである。また、一つの情報に複数のジャンルが重なることもある。

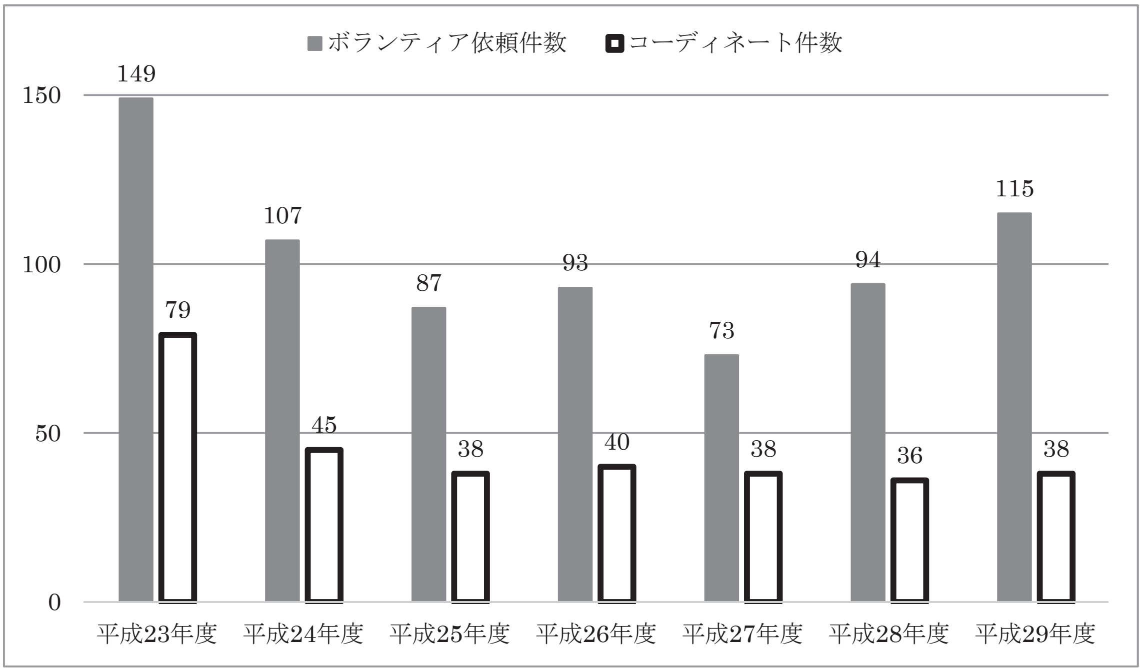
| | ボランティア件数 | コーディネート件数 | 参加人数 |
|---|---|---|---|
| 福祉 | 39件 | 10件 | 82人（昨年より 67人増） |
| 地域 | 50件 | 19件 | 80人（昨年より 18人増） |
| 子ども | 20件 | 9件 | 76人（昨年より 10人減） |

今年度は、ボランティア依頼件数が115件（昨年より21件増）と大幅に増加した。なかでも地域援助のボランティアは50件（昨年より15件増）、福祉系のボランティアは39件（昨年より14件増）とそれぞれ増加した。これらの増加は学生スタッフが地域の社会福祉

協議会を訪問することでボランティア情報を得ることができたのではないかと考えている。コーディネート件数も同じように地域援助のボランティアで昨年より 18 人増、福祉系のボランティアで昨年より 67 人増と大幅に増加した。これらの増加は本大学で主に福祉系の分野を専攻している学生が多い現代日本社会学科の学生に対して、同学科の学生スタッフが積極的に呼びかけていたことが効果的であったのではないかと考えている。

例年、地域支援・福祉系・子どもサポートの 3 分野の中では、子どもサポートのボランティアに多くの参加者が集まる傾向があった。しかし、今年度は子どもサポートのボランティア依頼件数は 20 件（昨年より 14 件減)、コーディネート件数は 76 人（昨年より 10 人減）と大きく減少している。このように 1 つの分野で成果が得られても、他の分野で減少があれば結果として大きな成長には繋がらない。そこで学生スタッフ一人ひとりが様々な分野のボランティアに参加し、そこで体験し得たものを新たな学生に伝え、ボランティアの輪を広げていく必要がある。

前年度までのボランティア依頼件数とコーディネート率を比較すると次の通りである。




ボランティア依頼件数は、平成 23 年度から減少してきたが、平成 27 年度から年々増加していることがわかるが、コーディネート件数は、平成 24 年度からほぼ変化はない。またコーディネート率という観点で見ると昨年よりさらに低下しており、我々のサービスを向上させることが今後も課題となる。

しかし、昨年度から取り入れた月別ボランティアは学生に対する情報発信の方法として、またボランティア参加促進の手立てとして有効であると考えている。このように学生が気

軽にボランティアルームを利用できる工夫をこれからもさらに続けていかなければならない。

4．学部学科別参加人数

学科別のボランティア参加人数は以下の通りである。

| 学部学科 | 参加人数 |
|---|---|
| 文学部：神道学科 | 5人 |
| 国文学科 | 20人 |
| 国史学科 | 29人 |
| コミュニケーション学科 | 22人 |
| 教育学部教育学科 | 50人 |
| 現代日本社会学部<br>現代日本社会学科 | 89人 |

ボランティア参加人数を学科別でみると、今年度は、現代日本社会学科の学生が89人（昨年より43人増）、国史学科の学生が29人（昨年より16人増）と2つの学科で昨年より2倍に増加した。これは地域援助、福祉系のボランティア依頼が増加したことに加えて、同学科所属のスタッフによる呼びかけの効果であると考える。一方で例年ボランティア参加人数の多い教育学科の学生は50人（昨年より19人減）と昨年に引き続き減少していることから関心の低下が懸念される。このように今年度は学科によってボランティア参加の増加・減少に偏りがあった。今後さらに参加者数の増加を目指すには、スタッフが学生に対してアプローチやニーズの調査・対応をしていく必要があると考える。

5　ボランティア登録学生についての詳細

ボランティアメール登録学生からみるコーディネートを分析する。今年度のメール登録学生は307人である。登録学生の詳細は次の表に示している。

登録学生詳細

| 学部学科別＼学年 | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 学科別合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 文学部 | 神道 | 8 | 1 | 3 | 1 | 13 |
| | 国文 | 10 | 10 | 9 | 0 | 29 |
| | 国史 | 6 | 6 | 10 | 1 | 23 |
| | コミュニケーション | 12 | 7 | 9 | 7 | 35 |
| 教育学部 | | 71 | 60 | 16 | 7 | 154 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 現代日本社会学部 | 21 | 31 | 0 | 1 | 53 |
| 学年別合計 | 128 | 115 | 47 | 17 | 307 |

今年度のメール登録学生は 307 人（昨年より 104 人減）と大幅に減少した。この原因として 4 月に行われた各学年のガイダンスでのアピール不足であると考えている。例年ガイダンス後のメール登録用紙回収によって多くのメール登録学生を得ることができるが、今年度はそのガイダンスの場面で多くのメール登録学生を得ることができなかった。ガイダンスでは、ボランティア登録への呼びかけを行い、一人でも多くの学生がボランティアへの第一歩を踏み出せるようにしていかなければならない。また、学生スタッフから学生へとボランティアの良さをより具体的に伝えていく必要がある。そのために、学生スタッフが学生へ発信できる年度初めのガイダンスで、各学年に合った DVD を上映している。実際にガイダンスを通してボランティアに興味を持ったという学生も見られる。そのような場で確実にメール登録学生を得ることが現在のボランティアルームで必要なことである。そして、多くのメール登録学生を得た時点で様々なアプローチや工夫をしていくことがこれからのボランティアルームの発展に繋がるのではないかと考える。

学部学科別でメール登録人数を見ると、昨年よりも登録学生の人数が減少している中でも 2 年生の合計が 115 人（昨年より 38 人増）と大幅に増加しており、2 年生の現代日本社会学科は 31 人（昨年より 26 人増）と大幅に増加している。これも同学年・学科の学生スタッフのアプローチによるものであると考えている。例年、現代日本社会学科の学生へのボランティア参加促進の方法の工夫が課題であったため、今年度の現代日本社会学科の学生を多く得ることができたということは大きな成果であったと考える。しかし、成果をさらに得るためには、他の学科へのアプローチも重要になる。そのために学生スタッフが各自の所属学科の学生に対してさらにアプローチするとともに、ニーズの調査や対応を深めていく必要がある。

課題はあるが、学生の心にボランティアの素晴らしさを伝えていくために、試行錯誤しながら、日々学生スタッフはアイデアを出し合い、新たなことに挑戦している。今年度は特に 2 年生の学生スタッフが学生に対して精力的に働きかけ、ボランティア参加人数を昨年よりも多く得ることができた。この成果を受け、来年度も学生スタッフが積極的に学生に対して働きかけていく必要があると考える。そして、学生がボランティアを身近に感じ、時間を作って誰かのために行動できる学生が一人でも多く増えるように私たち学生スタッフはサポートしていきたい。

（文責：文学部コミュニケーション学科 4 年　河口比加理）

# 2. ボランティアルーム企画・活動報告

# ＨＥＬＬＯ！ボランティア　活動報告

１　目的

ボランティアルームの年間計画の中に、今年度も「ＨＥＬＬＯ！ボランティア」が組み込まれた。この活動はボランティアに興味があるものの、なかなか第一歩が踏み出せない学生の背中を何とか押すことができないだろうかという趣旨で始まっている。また、ボランティアに行きたいのだが、相手の方々とどのように接していけばよいのかと考えている学生も多いと思われる。そうした学生に対して、相手の方との接し方のトレーニングをしてあげることも大切になってくる。

そこで、今年度もボランティアに向けての一歩を踏み出してもらうために、学生のボランティアに対する興味の喚起、不安解消、積極的参加を促すことを目的として「ＨＥＬＬＯ！ボランティア」を開催することとなった。この開催が学生のボランティアに繋がる大切な企画になると考えている。

２　活動内容

昨年度の「ＨＥＬＬＯ！ボランティア」は、実際にボランティアに参加した学生の方から、その内容や考えたことなどを話していただく体験報告やボランティアに対するイメージなども話し合う時間も取っていた。

昨年の内容や反省を受け、今年度はどのような形で進めるかについてスタッフで話し合いが行われた。その中で、ボランティアルームに来てもらうことばかりに気をとられないことが重要であることがあげられた。なぜなら、ボランティアルームに来てもらうことがゴールではなく、ボランティア促進が目的だからである。

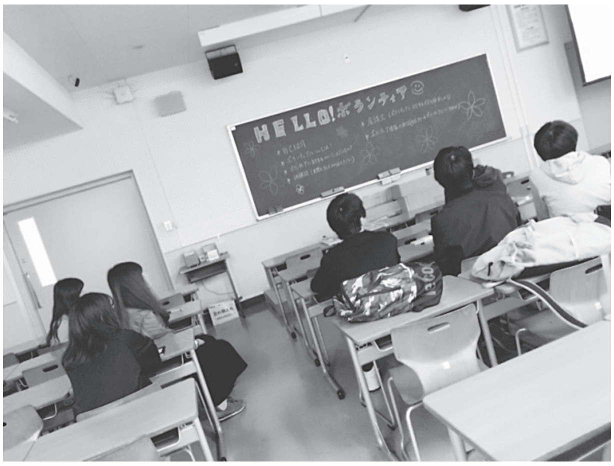
そこで、ボランティアに参加したことがある先輩方に体験したことを話していただく機会を設けた。概要は次のように設定した。

開催日：４月１９日（水）
　　　　４月２１日（金）
　　　　４月２４日（月）　　　　　　全日程　Ⅲ講時目
場所：１９日→５１２教室、ボランティアルーム
　　　２１日→２１２教室、ボランティアルーム
　　　２４日→５１２教室、ボランティアルーム
内容：①開催あいさつ
　　　②自己紹介
　　　③ボランティアルームの紹介
　　　④ボランティアに対するイメージ
　　　⑤体験談

⑥座談会
⑦ボランティア情報発信
⑧まとめのあいさつ

| | | |
|---|---|---|
| 企画者：コミュニケーション学科 | ４年 | 河口比加理 |
| | ３年 | 川口真奈 |
| 国文学科 | ３年 | 山口遼 |
| | ２年 | 森菜々子 |
| 教育学科 | ３年 | 田畑奈那子 |
| | ２年 | 岡崎なみき |
| 国史学科 | ３年 | 伊藤駿介 |
| | ２年 | 松下翠里 |
| 現代日本社会学科 | ２年 | 杉木真子 |

３　活動風景



ボランティアの体験談を発表している様子

ボランティアの不安解消などの座談会

４　活動報告

参加者は４月１９日（水）に１名、４月２１日（金）に３名、４月２４日（月）に１名であった。所属学部はばらばらで、多様な学生が参加してくれたと思われる。

ボランティアに参加した学生の体験談をＶＴＲに記録し流したり、実際にその場で体験した内容などを話してもらった。ＶＴＲを見せるということで教室での活動になってしまうため、ボランティアルーム内も見学してもらうように、ボランティアルームでの座談会も開催することになった。

「ボランティア」についての話し合いでは付箋を利用して、イメージや不安を書き出していき、まとめるという作業を行った。このような作業が初めてという雰囲気があり、戸惑っている様子もみられたが、次に行うことなどを説明していったことでスムーズに話

し合いができたと思われる。

ボランティアのイメージと不安などは次のような意見が出された。

| ボランティアに対するイメージ | ボランティアへの不安 |
|---|---|
| ・人を助ける、人助け<br>・大変やけどやりがいがある<br>・大変やけど感謝される喜びがある<br>・社会的に役立つことが出来る（社会貢献）<br>・他者との繋がり（一期一会）<br>・人員不足の補充<br>・金銭不足の時の手段<br>・学生の就活補助<br>・お年寄りの介護が多い<br>・役に立つことをする<br>・誰かをサポートする<br>・人の為になること<br>・福祉系のものが多い<br>・友達（知り合い）が増えそう<br>・幅広い世代の方と交流<br>・勉強になりそう<br>・達成感がありそう<br>・楽しそう<br>・困っている人のお手伝い<br>・良い人<br>・チームワーク<br>・大人のスタッフの方や大学生、お客さんとイベントなどの１つのものをつくりあげる<br>・お人好しな人が多そう<br>・意識高そう<br>・面接の時などに活用できそう<br>・お金的な報酬がない | ・新しい事への挑戦<br>・１人で参加する勇気がでない<br>・１人だと何していいかわからない<br>・自分で役にたてるのか<br>・ボランティアに参加してる人たちと仲良くなれるか<br>・知識がなくてもできるのか<br>・上手に話せるか<br>・大学の勉強と部活、アルバイトをしながらできるのか<br>・誰かに本当に喜んでもらえるのか<br>・役割をきちんと果たせるのか<br>・１人はつらい<br>・難しそう<br>・大人の人とコミュニケーションがとれるのか<br>・大人の人への対応がわからない |

座談会では、話し合いで出された意見の根本には何があるのかを話した。
ボランティアに対するイメージでは明るく積極的なイメージでボランティアで人の役に

立つと意識していることは参加者が今後もボランティアに携わっていく可能性を示唆していると思われる。反面、「役割をきちんと果たせるのか」という不安の意見も出された。

学生の多くがボランティアは人の役に立つと思っているものの、行うには何らかの役割をきちんともって責任を果たさなければならないと固く考えていることが理解できる。
ボランティアルームには、自分にあったボランティアに参加してもらえるようにボランティアを提供する必要があるだろう。そして、生活地域にボランティアがあれば参加してくれる学生が多くなるのではないかと考える。

ボランティアへの不安では「対応の仕方」が一番多い意見のように思われた。
これはボランティアに参加したいと考えている学生が第一に考えている不安なのであろう。どのように接すればよいのか、どんな話をすればよいのかという不安に思っていることを解消してあげるのがボランティアルームの役割になる。

高齢者や障がいのある方に対する接し方のレクチャーなどを求めていることになり、ボランティアルームは、そのような企画を開催する必要があることを理解しなければならない。また、質疑応答でもボランティアに参加するうえで不安が多く出されたことからボランティアに参加したいけれども、不安が大きいことが推察できた。ボランティアルームにできることを検討しなければならないだろう。

現在受けいるボランティアの情報は、プリントにして配布した。募集しているボランティアについて説明して、参加方法などの確認を行った。最後に担当学生スタッフがまとめのあいさつをして閉会した。

５　まとめ

「ＨＥＬＬＯ！ボランティア」を開催するのはいつも新学期の始めである。しかし、一番参加してほしい一年生が忙しい時期であった。そのこともあってか参加者人数が昨年に比べてたいへん減少した。少ない参加者人数であるにも関わらず、参加者からは貴重な意見を得ることができた。

ボランティア参加者の声は一般学生の参加を促すには重要な声となると考えるので、
ボランティア参加者の声を公開したことはボランティア参加促進となった。今後もボランティア報告を大切にし、ボランティア参加者の声を届けるように考えていきたい。

座談会において、まだまだ学生スタッフのぎこちなさが見られた。ボランティアルームの学生スタッフとして、さまざまな学生と接することになるための、コミュニケーション能力を普段から高めていくことを心掛けていく必要があろう。

（文責：現代日本社会学部現代日本社会学科　２年　杉木真子）

# mini ボランティア体験　活動報告

１　目的

　ボランティアに興味があるがなかなか参加できない学生に対し、参加促進のために行った。また、ボランティアルームの企画物は子ども達や高齢者の方達が対象のものが多く大学生対象のボランティアが少ないということで、今回は大学生を対象に福祉について考えてもらえるボランティアを企画した。

2　活動内容

　今回が初めての企画ということで、まずはスタッフ内で話し合い内容を決定した。
新学期ということもあり、ボランティアルームにはどのようなボランティアがあるかを伝えたい。今後のボランティアの参加を増やしたいということから、ボランティアルームを代表するボランティアである「サマースクール」・「車イス de 伊勢神宮参拝」の体験版を行い、ボランティアに参加しやすいようにと企画した。また今年は「サマースクール」の福祉体験ゲームラリーで新たな試みである手話を取り入れようと考えていたため、mini ボランティア体験でも手話を取りれることを考えた。本大学には手話サークルがあるということで、手話サークルの方々に手話講座をお願いしようと決定した。そこで手話サークルの顧問である開発推進センター准教授板井正斉先生にお願いしたところ、伊勢市市役所で「障がい者サポーター」という制度があることを教えていただいた。「障がい者サポーター」とは様々な障がいの特性や障がいのある人が困っていることに対して、それぞれ必要な配慮を理解し、日常生活でちょっとした配慮を実践する方々のようである。その内容から、今回の趣旨にあっているのではというアドバイスをいただいた。板井先生から伊勢市健康福祉部高齢・障がい福祉課障がい福祉係の野北様と中様をご紹介していただき、大学にて講演をしていただけないかとご協力をお願いしたところ、快諾していただいた。そこで今回のボランティア体験は「障がい者サポーター」についての講義をメインにし、mini ボランティア体験と称してサマースクールの福祉体験ゲームラリーから点字体験と車イス de 伊勢神宮参拝から車イスの体験をしてもらおうという内容に決定した。

　日程を決めるにあたり野北様・中様の予定を元に、土曜授業がある生徒にも参加しやすいように土曜日の午後から開始することにしようと日程と内容を次のように設定した。

開催日：５月２７日（土）
時間：１３：００～１５：３０
場所：皇學館大學　７１１教室

内容：12：30　　　　　受付開始
　　　13：00　　　　　開会式
　　　13：10　　　　　サポーター研修会（障がい者サポーターについて）
　　　14：50　　　　　ボランティア mini 体験
　　　　　　　　　　　　・点字体験（サマースクール）
　　　　　　　　　　　　・車イス体験（車イス de ボランティア）
　　　15：15　　　　　閉会式

責任担当者：文学部国史学科 2 年　松下翠里

3　活動報告

当日の参加者はボランティアルームスタッフが 8 名、一般学生が 19 名であった。はじめに 12:30 の受付に先立ち、ルームスタッフは午前中から会場設営の準備にとりかかった。12：00 頃に伊勢市健康福祉部高齢・障がい福祉係障がい福祉係の野北様と中様がお見えになり、リハーサルを行い、12：30 より一般学生の受付を開始した。

13：00 から開会式として、当日のプログラムの内容説明をした後、参加者とスタッフで自己紹介を行った。

今回のメインであるサポーター研修会では、まず伊勢市健康福祉部高齢・障がい福祉係の野北様より、障がい者サポーターについてのお話があり、障がい者サポーターとはどういう人達の事をいうのかということについて学んだ。その中で障がい者サポーター制度の普及などに協力している団体の中に皇學館大学も入っているということに驚いた。これを期に少しでも多くの人に障がい者サポーター制度について知って貰えたらと思う。また、伊勢市には現在どれくらいの障がい者がいて、どれだけの人がサポートをうけているのかについてを教えていただいた。最後に障がいにはどのような種類があるのかや、障がいによってのサポートの仕方を DVD で鑑賞した。今回の講座で、障がいについての人々の認知が自分自身含め少ないということを痛感した。

障がい者サポーターについての説明をうけたあとは、伊勢市健康福祉部高齢・障がい福祉係の中様より「おはよう」や「こんにちは」などの手話による挨拶をまず教えていただき、応用として「皇學館大学」や「伊勢」といった手話も教えていただいた。

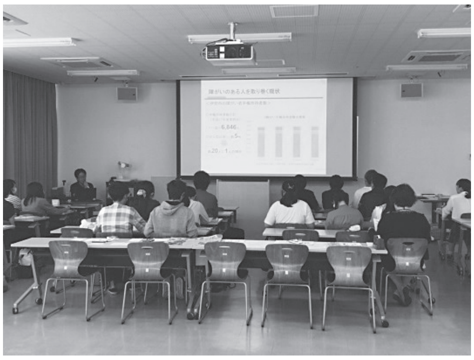
10 分間の休憩を設けた後、「サマースクール」・「車いす de 伊勢神宮参拝」の mini ボランティア体験として点字目隠しゲームと車イスの体験を行った。一般学生を 2 チームに分けて、2 つのブースに 1 チームずつ分かれてもらい行った。2 つのゲームのやり方・進行方法は「サマースクール」を参考にし、車いす体験はコースに段差やクネクネ道など障がい物を設け、二人一組に分かれ実際に車いすを押す人、乗る人に分かれて行った。点字目隠しゲームはアイマスクをしてもらい点字に触れ、どのような形をしているかを当てても

らった。車いすや点字体験は普段の生活ではなかなか体験できないため、参加学生は積極的に活動を行っていた。

最後にアンケートを書いてもらい全員で写真を撮り、15 時 15 分に終了した。

ルームスタッフとしては、その後会場の片付けをし、反省会を行い、16 時 30 分頃に解散した。

4　活動風景



↑サポータ研修会の様子

↑点字当てゲームの様子

↑車イス体験の様子

↑全体写真

5　参加者の感想・意見

・サポーター研修会を通して障がいの種類、実態について勉強することができた。
・障がいのある人たちへの接し方が分かった。
・口頭だけの説明だけではなく、手話や点字の体験と実際に目で見たり体感しながらボランティアについて学ぶことが出来た。
・点字や車イスなど普段経験できないことをできて良い経験になった。

6　反省

mini ボランティアに参加したスタッフからの反省としては、次の三つの点が挙げられた。１つ目にスタッフ間の情報共有不足である。１日の流れなどは前日の夜に情報共有を行ったが、mini ボランティア体験で行う点字当てゲーム・車いす体験については当日の朝にリハーサルを通して共有するつもりでいた。しかし土曜日の午前中に授業のあるスタッフは朝に行われたリハーサルに参加できなかった。そのために本番の休憩中に内容をスタッフに説明したため、バタバタした状態で本番を迎え、少し時間も押してしまっていた。朝に授業があるということを考えて事前にしっかりとリハーサルをする時間を設けておくべきだったと考える。

2 つ目は授業時間への配慮という点である。朝に授業が行われているということに関係しているが、今年度から授業の開始時刻が去年より 30 分遅くなったということを忘れており、mini ボランティア体験の開始時間を 13 時にしてしまった。そのため、昼食をうまくとれない一般学生やスタッフがいてもおかしくない。開始時間を決める際にきちんと授業時間を配慮し余裕をもってスタートが切れるようにしなければならないと思う。

3 つ目は準備が遅かったのではないかということである。mini ボランティア体験の締切日は 5 月 25 日。募集を開始したのが 4 月 26 日と一ヶ月間しか参加学生を募集する時間がなかった。4 月の最初に行われる履修指導の際にボランティアルームについて説明する時間を設けており、新入生のガイダンスの際には告知できるように準備を早めに取り組んでおけば、学生への周知はもう少し広がったように思う。また、お昼休みに行った呼び込みの際もスタッフへの呼びかけが遅かったため、食堂前でしか呼び込みができなかった。次回も行うようであるならしっかりと予定を逆算して余裕を持って準備できるようにしていきたいと思う。

## 7　mini ボランティア体験のまとめ

ボランティアルームの企画としては、夏に「サマースクール」・「ちょこっと福祉体験」、秋に「老人ホームで Let’s 文化祭」・「倉田山清掃」とあるが、春に行なわれる企画がなかった。また、子どもや高齢の方々に向けてのボランティアは数多くあるが、大学生が主体的となって行う活動は今までに無く、大学生にボランティアについて考えてもらう機会を設けようと「mini ボランティア体験」を企画した。参加学生の数は 19 名と多く、ボランティア促進の大きな一歩になったのではと思う。今回は福祉をテーマにしており、参加学生の多さから福祉系のボランティアに興味がある学生が多いのではないかという発見もできた。先輩達が卒業して新体制になり初めての企画。ボランティアルームとしても、この企画から多くのことを学べ良いスタートを切れたのではないかと思う。今後この反省を活かして今回よりもパワーアップした企画を作れるようにしていきたい。

（文責：文学部国史学科２年　松下翠里）

# ちょこっと福祉体験　活動報告

１　目的

「ちょこっと福祉体験」は伊勢市社会福祉協議会が主催する企画であり、ボランティアルームは伊勢市社会福祉協議会と合同で企画・運営を行った。今年度が 2 回目の活動になる。

この活動は、夏季休業中の小学生、中学生、高校生を対象としており、協調性や福祉に関する知識を身につけることが出来る内容を考えている。また、参加してくれた大学生には、子ども達とのふれあいを通して接し方などを学んでもらうことを目的とした。

２　活動内容

福祉がテーマということで昨年度同様、参加した子ども達に福祉について学んでもらうために、車イス体験、老人体験、福祉〇×クイズを行った。また参加者の製作活動として昨年度好評だったマーブリングを今回も行うことにした。

昨年度はチームで自己紹介をした後すぐに体験を始めてしまったため、チーム内で打ち解けるのに時間がかかってしまったという反省があり、今年度からアイスブレイクを体験前に入れることにした。アイスブレイクで何をしようかとスタッフ間で話し合った結果、福祉に沿ったことをしたいということになり、視覚障害者の気持ちを体験してもらうために、「箱の中身はなんだろな」をすることにしました。

開催日：平成 29 年 8 月 8 日（火）13:00～16:15

場所：皇學館大学

内容：13:00　受付

13:15　ハコの中身はなんだろなゲーム

13:30　車いす体験　老人体験　福祉〇×ゲーム

15:00　フォトフレーム作り（マーブリング工作）

16:15　解散

企画者：現代日本社会学部　2 年　片山智貴　杉木真子　大田芙侑　奥　梨沙

３　活動の様子

老人体験

車イス体験

マーブリング写真立て

集合写真

４　活動報告

参加者は、小学生 3 人、中学生 2 人、高校生 18 人の合計 23 人の地域の児童、生徒であった。またボランティアとして参加した大学生は 10 人、ボランティアルームスタッフ 8 人、合わせて 18 人の大学生の参加であった。現代日本社会学部の学生が多く、福祉を勉強している学生が多かったため、子ども達に積極的に教えている様子から意欲が見られた。

受付の際、チームを分け、それぞれで自己紹介をする時間を設けた。初めは初対面で年齢層が広いということもあり、やや緊張した雰囲気であった。雰囲気を和ますためになにかしようと考えた。せっかくなら福祉に沿ったことをしたいということになり、視覚障害者の気持ちを体験してもらうために「箱の中身はなんだろなゲーム」を行った。ゲームをしていくうちに徐々に緊張がほぐれ、チームの雰囲気が和み、コミュニケーションを積極的にとろうとする様子が伺えた。自己紹介・アイスブレイク後、車いす体験をするグループと老人体験をするグループと福祉〇×クイズをするグループに分かれた。

車いす体験では、初めに車いすの仕組みを知ってもらうため、実際に車いすを使って実践してみせた。それから車いすに乗る体験、車いすを押す体験の二つの役割をグループ内

で決めて、伊勢市社会福祉協議会さんと一緒に考えたコースをまわった。コースは、スロープや段差での車いすの使い方を体験できるようにした。老人体験では、伊勢市社会福祉協議会さんより高齢者体験キットをお借りして参加してくれた子ども達に着けて動いてもらった。伊勢市社会福祉協議会のマスコットキャラクターのげんきくん、こころちゃんに登場してもらい体験キットをつけたまま同じポーズをとるようにした。何もつけていない状態でなら簡単にできるポーズであるが体験キットをつけることによってポーズが取りづらくなる。それを実際にやってみることで高齢者の大変さを理解してくれたように思う。

福祉〇×クイズでは、福祉に関する問題を〇×形式で出して解答して貰った。例えば、「エレベーターの中にある大きな鏡は身だしなみを整えるためにある」といった問題を出した。このような福祉に関するクイズを通して、子ども達に福祉に関する知識を増やしてもらった。

これらの体験が終わった後、図画工作室に移動してチームごとに座り、マーブリングフォトフレーム作りを行った。スタッフが説明した後にそれぞれでマーブリングフォトフレームを作った。最初にアイスブレイクを行っていた効果や体験を通して緊張がほぐれ和気合いあいと工作をしている姿が見られた。しかし、小学生はやはりまだ遠慮している姿が見られたが、同じグループの人達がそれぞれの立場を理解して小学生の子ども達をうまくリードしていたてくれたと思う。完成したフォトフレームに一番最初の時に撮影していた集合写真を参加者に配りプレゼントした。マーブリングフォトフレーム作成後、教室に戻りアンケートを書いてもらい、16 時 45 分ごろに解散した。スタッフは残って後片付け、反省会を行った。

5　参加してくれた児童、生徒からの感想

・車いすが想像していたよりも重くて坂道を登ったり下ったりするのもひと苦労だった。
・高齢者の人たちはいつも重たい状態で杖をついているのだと思った。
・車イス体験をしてこんな気持ちで乗っているのが分かった。
・車イスを押す時は声かけが大切だとしることができた。

6　反省

ちょこっと福祉体験の反省としては 3 つある。まず 1 つ目はスタッフ間の情報共有ということである。これはどの企画にも言えることだが、中心でやっているメンバーだけが詳細をしっており、当日手伝いで来ているスタッフは一般学生同様何も知らない状態できている。そのままでは一般学生を引っ張っていくことができず不安にさせてしまうため、ボランティアを提供し企画している立場としてはいけない。スタッフなら何でも知っているから安心してついていける。そう思われるためにも中心メンバーだけではなく、参加する

スタッフがしっかりと情報を確認する必要がある。それはミーティングの場であったり、貼り付けの時間であったり、中心メンバーに任せきりではなくルームスタッフとしての自覚をもち企画に携わっていく必要がある。そのためにもスタッフ間でのコミュ二―ケーションは必須だと感じた。

2つ目は自分たちが積極的に学生や小中高生に話しかけるべきだった。今回は前回の反省を踏まえ最初にアイスブレイクを取り入れた。前回よりコミュニケーションをとる場が増えたが、そこでしっかりとスタッフが率先してコミュニケーションを取らないといけないと思う。参加してくれた小中高生はもちろん、ボランティアスタッフとして参加してくれている一般学生も初めてのことだらけで緊張している。その不安、緊張をほぐし「ボランティアは楽しい！」と思ってもらえるようにするのもスタッフとしての仕事なので、コミュニケーション能力を上げるということは大事なことだと思う。

3つ目は去年より参加者が少ないということ。大学生の参加が昨年は26人だったのが、今年は10人と16人も減少してしまった。理由としては、ＳＮＳを上手く活用できず、呼び込みもちょこっと福祉単独では行わずサマースクールなどと合同でやっていたため、一般学生への周知が足りていなかったのではないかと思われる。来年度からはもう少し早くから準備を開始し呼び込みも単独で行うなどの工夫が必要である。

7　ちょこっと福祉体験のまとめ

2回目の開催ということで、昨年よりはパワーアップしたちょこっと福祉体験を行えたと思う。大学で行うボランティアということから一般学生にも参加しやすいという声も多く聞く。また小学生だけではなく、中学生から大学生までが福祉について一緒に学ぶという機会はなかなかないので、人間関係やふれあい方を学び、気づくことが多かったのではないかと考える。

松阪市社会福祉協議会と連携して行っているサマースクールと同様、ちょこっと福祉体験もボランティアルームを代表する企画にしていかないといけない。そのためには今回の反省を踏まえ、1人1人がまずはスタッフとしての自覚と責任をもち行動していきたいと思う。これからも多くの学生に参加してもらえるように力を入れていきたいと思う。

（文責：現代日本社会学部現代日本社会学科２年　奥　梨沙）

# サマースクール　活動報告

1　目的

今年度で10回目の開催となるサマースクールは、松阪市社会福祉協議会とボランティアルームが合同で企画・運営を行ってきた企画である。

この企画は、夏季休業中の小学生を対象としており、障がいについて理解してもらうことを主とし福祉のテーマに沿って創造性や協調性を身につけることができる内容を毎年実施している。また、参加してくれた大学生にはこのボランティアを通して子どもたちとの触れ合い、接し方を学んでもらうことを目的とした。

2　活動内容

今年度は初対面の人同士が緊張をほぐすために行う手法としてアイスブレイクゲームをスタッフ間同士、子どもたちとスタッフ間で集合時間までの空き時間などを利用して取り入れた。

昨年度のサマースクールは、4つのブースを10分ごとに子どもが回っていく福祉体験ゲームラリーを行った。子どもたちが楽しみながらも福祉について知ることができ、円滑にブースをまわることができるように昨年と同じ 4 つのブースで福祉体験ゲームラリーを企画した。また、昨年は予定時間内に収まったものの時間に少し余裕を持たせるため10分ごとに回っていたところを今年度では1ブース7分に変更して行った。

広報活動を行った際、「何曜日は部活があるからいけない」という学生の声を多く聞いたため三日間とも違う曜日に設定した。さらにブースの数や子どもの参加人数などに考慮して、学生の定員を各日10名とした。

開催日：8月11日（金）・16日（水）・22日（火）　13：00～16：00
場所：松阪市徳和地区市民センター（11日）、松阪福祉会館(16日、22日)
内容：　1）宿題を教える
　　　　2）お昼ご飯
　　　　3）自己紹介、アイスブレイクゲーム
　　　　4）福祉ゲームラリー
　　　　　車いす体験、豆つかみ、手話、点字当て
　　　　5）お菓子作り
　　　　6）終わりの会
　　　　7）反省会

企画者：文学部2年　松下翠里、
現代日本社会学部　2年　中根くるみ　森谷俊介

3　活動報告

一般学生参加者は8月11日（金）に5名、16日（水）に7名、22日（火）に10名であった。1年生の参加者がおらず2年生と3年生の学生のみで友達に誘われて参加したという参加理由が最も多かった。所属学部は現代日本社会学部が一番多く、次いで教育学部が多かった。

サマースクール開始時間までの間、先に来た子どもたちから順にスタッフと命令ジャンプゲームというアイスブレイクゲームを行った。命令ジャンプゲームはみんなで手をつないで円になり円の中心に立つ人を決める。中心に立つ人が「前、後ろ、左、右」と命令し、円を作っている人はその命令された方向に従ってジャンプするというゲームである。

その成果もあってか昨年よりは子どもとスタッフの打ち解けが早く、子どもたちも緊張せずに話をしていたように見えた。

今回の福祉体験ゲームラリーでは、車いす体験、豆つかみ、手話当て、点字当ての 4 つのブースを設けた。車いす体験では車いすの組み立て方を説明し、障害物を避けながら車いすを押す側と実際に車いすに乗る側に別れ交代で体験してもらった。その際に、子どもたちが怪我をしないよう、必ず後ろに学生がついてサポートを行った。豆つかみでは、視野狭窄眼鏡や色彩眼鏡をかけて指定された色の豆をお箸でつかんでもらうという体験をしてもらった。手話当てでは挨拶等の手話を実演し、選択クイズ方式で手話の意味を当ててもらうというゲームを体験してもらった。点字当てでは目隠しをしながら点字を触ってもらいどんな形の点字だったか当ててもらうゲームを体験してもらった。

学生間でも交流ができるように学年・学部の異なるグループを作り、各ブースを担当してもらった。また、サマースクールの目的でもある障害について知ってもらい考えてもらうことが出来るようゲームのルールだけでなく、ゲーム終了後には体験して感じたことを話し合ってもらう時間を設けた。昨年より時間を短縮したため時間に余裕をもって行うことが出来た。

お菓子作りでは地域の方のお力添えによりチヂミ、手作りアイス、かき氷作りを行った。高温のホットプレートを使うため、子どもに怪我がないよう絶えず目配りや声掛けを行った。アイスクリームを手作りするのが初めてという子どもたちが多く、興味関心を持ち率先して作っていた。

終わりの会では記念撮影とおかしの手づかみや記念品の贈呈を行った。

子どもたち全員のお見送りをした後、反省会を行った。参加学生を含めたスタッフ全員から感想や反省点を発表してもらい共有した。

4　活動風景

車いす体験

点字当てゲーム

手話

お菓子作り

5　参加学生からの感想

・子供と接する時間が長く良い経験になった
・初めは子どもたちとの関わり方がわからなかったが仲良くなれてよかった
・教える立場になることで難しさや自分に必要なことを客観的に知ることが出来た
・どのようにゲームを説明すればよいかわからなかった
・初めてのボランティアに参加して戸惑うことが多かったが、予想以上に楽しかった
・子どもたちに元気をもらった
・ゲーム内容もお菓子作りにおいても子どもが楽しめる工夫がなされていた
・子どもたちと触れ合えて楽しかった

6　反省

反省会では以下の二つの点が主に反省点となった。

一つ目は、アイスブレイクゲームの内容についてである。ゲームが始まる前に参加学生と子どもが共に緊張していて戸惑っている様子だったという昨年の反省点から、今年度はアイスブレイクゲームを取り入れた。しかし、1種類ずつしか用意していなかったため飽きてしまう、体力が持たないといった問題点があがった。そのためゲーム内容や種類について考え、準備していく必要があると感じた。

二つ目は、福祉体験ゲームラリーの説明、道具についてである。参加学生からゲーム内容について子どもに説明するのが難しいといった指摘があった。このような指摘を受けた原因として、事前に配布した資料の説明がスタッフ向けに書かれているため、子どもに説明する上で分かりにくい部分があったからだと考えた。今後は子どもにわかりやすく伝えることが出来る説明文に変えていく。また、道具について豆つかみのお箸を滑りにくいものに変えることや点字の問題を単語にするなどの反省点が挙げられた。

7　まとめ

サマースクールに参加した子ども全員にアンケートを行った結果、楽しみながら障がいについて学ぶことができたという意見があった。また、初対面の子どもたちが一緒に遊んでいる姿を見たことから障がいについて知ってもらう、協調性を身につけてもらうという企画の目的が達成できていると感じた。参加学生においても子どもと触れ合い、接し方について勉強になったという意見が数多く見られたことから、目的達成に沿った活動を行えていることがわかった。さらに、毎年参加している子どもが多く見られたことから、これからも新しい内容を企画し、毎年楽しんでもらえるように工夫していきたい。

ボランティアルームスタッフは、松阪市社会福祉協議会さんのお力添えのもと企画・運営を行うことで、その難しさだけでなく楽しさや達成感についても経験することが出来た。

サマースクールは初めてボランティアに参加する学生を含め、一般学生の参加が多く人気があり、今後ボランティアの参加促進につなげることのできる重要なボランティアであると考えられる。そのため、多くの学生に参加してもらえるように反省点を改善しながら充実した内容にすべく、より一層力を入れて取り組んでいきたい。

（文責:現代日本社会学部現代日本社会学部2年　中根くるみ）

# 「老人ホームでLet's文化祭」　活動報告

１．目的

　昨年度、１年生が企画・運営をして「老人ホームでLet's文化祭」が行われた。
毎年、伊勢や松阪の社会福祉協議会さんと協力して子どもを中心とした企画は行われている。また子どもが参加するお祭り等のボランティアも多く依頼されている。しかし、教職に就くためには介護等体験が必須となっている。老人ホームでの企画を通して幅広い年代の方々と触れ合うことができるように、またその貴重な機会として「コミュニケーション」の機会を作り、コミュニケーションがより取りやすい環境を作れるように企画した。
前回は初めてということもあり、利用者さんの事情を鑑みながら計画を進めることができなかった。今回は前回の反省・経験を活かしながら、学生と利用者さんがより関わることのできる文化祭を目指した。

２．活動内容

　後述するが、前回の反省を活かして部活動の発表を１つにした。部活動の発表を見ながらボランティア参加者と利用者さんの緊張をほぐすことが狙いである。また、今年は昨年度のカレンダー作りからフォトフレーム作りに切り替えた。これは前回の反省の中でカレンダー作りに時間と体力が必要となってしまい、利用者さんが疲れてしまったということがあった。よって、もっと簡単に製作が可能なものはないかとなり変更した。
以下がその内容である。

日時：平成29年度11月5日（日）　　13：00～17：00

場所：介護付有料老人ホームくらたやま

企画者：小林真亜莉・奥山智司・渡辺楓

内容：　13：15　　施設内の飾りつけ

　　　　14：00　　開会式（担当者、施設長さんの挨拶）

　　　　14：30　　雅さん演舞終了
　　　　　　　　　お菓子食べながら休憩

　　　　15：00　　フォトフレーム作り開始
　　　　16：00　　閉会式

３．活動報告

今回は一般学生が２名、スタッフが６名の計８名とよさこい部“雅”（以下、雅）６名が参加した。まずボランティアルームスタッフの数名が早めに会場へ行き、会場内を飾りつけした。その後に一般学生と雅の方々も合流した。開会式のあと雅の演舞に移った。一般学生とスタッフは利用者さんの近くで一緒に演舞を見ていた。雅さんは毎年ボランティアルームとは別で演舞を行っていることもあり、利用者の方々はとても楽しそうにリズムに合わせて体を動かしたりする姿も見られた。約 30 分の演舞をしていただいたあと休憩としておやつの時間を設けた。ここで利用者さんと一般学生はコミュニケーションをとりながら一緒にお菓子を食べた。学生と利用者の話が弾んでいる様子が随所に見られ、予定よりも少し時間を延長した。そして、15 時頃にフォトフレームつくりに移った。今回は大枠をくらたやまの担当者の方に作っていただいていた。そこにボランティアルームスタッフが作った装飾品をのりで貼り付けていくというものである。学生は利用者の方が作るのを見守りながら完成させていくお手伝いをした。16 時頃には全ての利用者の方が完成をさせることができた。閉会式をして会を終えた。その後、一般学生とボランティアルームスタッフが後片付けをして終了した。後日聞いた話であるがフォトフレームを使っていただいている利用者さんもいらっしゃるようである。

４．参加学生の声

・ボランティアが楽しかった、また参加したい
・お年寄りの方々と関われる貴重な機会だった
・時間にゆとりがあって状況、雰囲気を見ながら対応できた
・一般学生から対応の仕方を聞かれて答えられなかった
・近くのお年寄りに話しかけられるようにしたい
・駅伝と日にちが重なってしまった

５．まとめ・反省

まず日程に関しては、全日本大学駅伝と重なってしまった。それにより送迎の際の場所が確保しづらくなってしまった。今後は、学外の行事やイベントも考慮したうえで日程を決めていきたいと思う。また一般学生の参加率の低さについては、一般学生への事前の告知が １ 週間前と直前になってしまったことが原因と考えられる。今後は、企画の始動を早め、募集期間を少なくとも １ ヶ月は設け、食堂前での呼び込みなども行うことにより、一般学生の参加率の低さを改善していきたい。

当日の流れに関しては前回の反省を活かし、部活動を ２ つから １ つに減らしたこと、カレンダー作成からフォトフレーム作成にしたことが、大きな変更点になる。これにより時

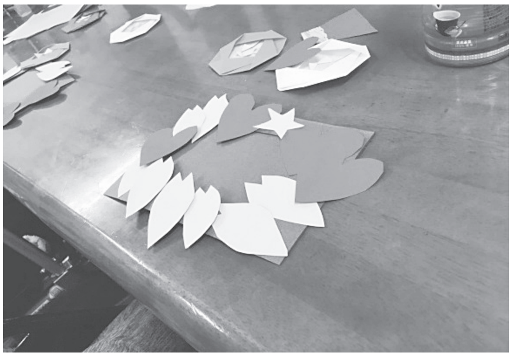
間が短縮、また作業の量や細かさが改善され、利用者の方が疲れることなく、最後まで楽しんでいただきながら進めることができた。

全体の雰囲気としては、一般学生の方も利用者の方と話したり、寄り添ったりしている姿があり良い雰囲気で会を進めることができた。雅さんの盛り上がりによって打ち解けやすくなったことも考えられる。昨年に引き続いての企画で、我々もやりやすかった部分があり、気持ち的にも余裕をもって楽しむことができた。今後も継続していきながら様々な世代の方々と交流していく経験を積んでいきたい。

6．活動風景

飾り付け

協力して下さった雅さん



フォトフレーム

会場全体の様子

【文責 : 文学部国文学科２年　小林真亜莉】

# 他大学視察　　活動報告

１．目的

愛知淑徳大学のコミュニティ・コラボレーションセンター、通称 CCC（以下、CCC）さんとそれぞれの活動の紹介やボランティアについての意見交換を通して、ボランティアについて改めて考える。

また、1 年生を連れていくことでボランティアルームの位置づけや活動を再認識してもらうことを考えている。1 年生はこれを機にボランティアについて考え、ボランティア現場での活動に活かしたり、ボランティアを一般学生に伝える立場としての振る舞いやその役割について考えを深め、動いていけるようにしたい。

２．活動内容

毎年夏頃に定期的に行っている企画である。私たち皇學館大学ボランティアルームのスタッフと CCC スタッフのみであった。しかし今年はチャレンジファンドの団体の 1 つである、Fsus4 さんにも参加して頂いた。Fsus4 さんはボランティアルームのスタッフの 1 人が知り合いであった。そしてお話をして参加していただくことになった。

日時：8 月 24 日（木）　　13：00～16：00

場所：愛知淑徳大学星が丘キャンパス　コミュニティ・コラボレーションセンター内

内容：　13：00　交流会開始

・自己紹介

・ボランティアについて個人で考える。

テーマ：「ボランティアの魅力とは？」

・ボランティアについてグループごとに考える。

テーマ：「その魅力を一般学生に伝えるには？」

・ご歓談

15：30　交流会　終了　　後、現地解散。

３．活動報告

皇學館大学ボランティアルームは計７人、CCC スタッフは計２名、Fsus4 さんは５名の計 14 名で行った。まずは各自の自己紹介と各団体の活動内容を紹介しあった。そしてまずは「ボランティアの魅力とは？」について個人で考えてもらった。そして次に各自が発表した魅力をどのように発信していくかを考えてもらうために、テーマを「その魅力を一般学生に伝えるには？」として、それぞれの団体を混ぜて計３グループ作り話し合ってもらった。この時間を１時間弱くらいとった。各グループはテーマ以外にも個人的なことやお互いの学校のこと、伊勢や名古屋のことなどもお話していた。そして各グループ発表し合った。その後 Fsus4 さんが紹介用のパワーポイントを作ってくれていたのでその発表を聞いた。そして最後はお菓子とお茶をしながら各自ご歓談をして、記念撮影をして会を終了した。

以下は先述した「ボランティアについて考える」で出た意見それぞれをまとめたものである。

○テーマ：「ボランティアの魅力とは？」

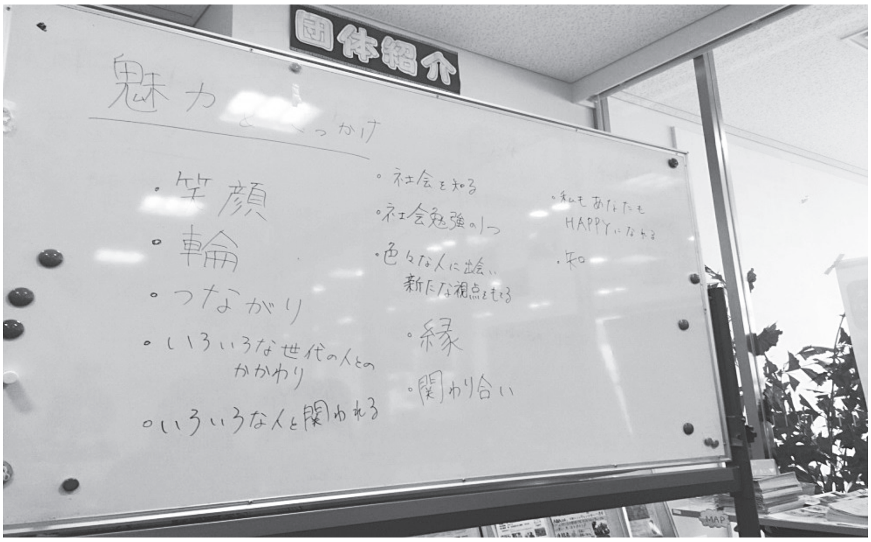
笑顔、輪、つながり、いろいろな世代とのかかわり、いろいろな人と関われる、知、社会を知る、社会勉強の１つ、色々な人に出会い新たな視点をもてる、縁、関わり合い、私もあなたも HAPPY になれる

○テーマ：「その魅力を一般学生に伝えるには？」

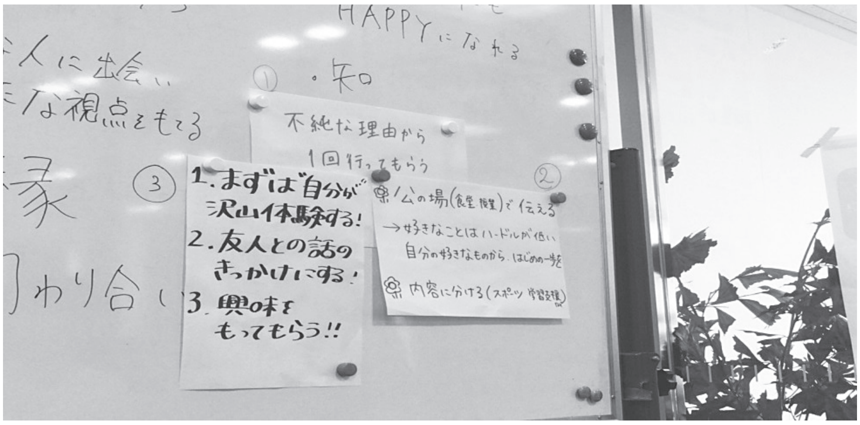
グループ①：不純な理由から１回行ってもらう

グループ②：１、まずは自分が沢山経験する！<br>２、友人との話のきっかけにする！<br>３、興味をもってもらう！！

グループ③：・公の場（食堂、授業）で伝える<br>⇒好きなことはハードルが低い<br>自分の好きなものから、はじめの一歩を<br>・内容に分ける（スポーツ、学習支援）




テーマ：「ボランティアの魅力とは？」




テーマ：「その魅力を一般学生に伝えるには？」

４．参加者の感想

○ボランティアルームスタッフから

・様々な意見が聞けてタメになった。

・ボランティアについての考え方が変わった。

・掲示してある資料の量が多くて驚いた。

・初めての人たちと話せるまで時間がかかった。

○CCC さんより

・トークのテーマが断片的で難しかった。

・今後も一緒に交流会等をやっていきたい。

・ボランティアルームのパンフレットにある、ココロの木が素敵でした。

５．反省・感想

今年は例年と違うことがあった。それはこれまで１団体が増えたことである。音楽を使って活動をされている Fsus4 さんだ。デイサービスセンターで月１回の演奏を始めとして様々なボランティアを行っているだけあって、非常に意見や思いがしっかりされていた。ボランティアルームスタッフにもとても刺激的になったのではないだろうか。また CCC コーディネート件数を見ると、目を見張るものがあった（募集型ボランティアへの参加者数が 2015 年度は計 1114 人、2016 年度は 1407 人『2016 年度　活動報告書より』)。また以前に私が事前に行かせて頂いたときにはキャンドルを作っていた。竹の廃材を使った取り組みの１つであったようだ。また瀬戸信用金庫さんや東邦ガス（株）さん、トヨタ自動車（株）ボランティアセンターさんなどとも連携しているようであった。CCC さんの取り組みの幅広さを感じた。そのうえ、とても楽しそうに作っていたのはとても印象的だった。どちらの団体も積極的に意見を述べてくれていてとても良い時間にすることができた。

反省としては、ボランティアルームスタッフの１年生はこの８月時点でまだボランティアに参加していなかった。よってなかなかボランティアのイメージがつかみにくかったというように思う。少なくとも１度はボランティアに行くような声かけをしておけばより充実した時間になったように思う。司会者である私の個人的な反省としてはもう少し目的を明確にすべきだったと思う。皆の自由な様々な視点の意見や考え方が聞きたかったので、断片的なものにしてみた。しかし少し質問が曖昧になりすぎてしまったようだ。もう少ししっかりと目的を明確にして皆に何を考えさせて、何を感じさせたいのか、自分の中で確固たるものを持った上で司会を務めたい。

今後に向けて、CCC さん以外にも同じような活動をしている団体をもつ大学はあると考える。たくさんのボランティアに関わっている人たちの話を聞くことで新たな考え方や自分の考えが深まったりすることもあると思う。今後も同じような活動をしている団体に目を向けて連絡をとる等、積極的な活動を行っていきたい。

最後に毎年この企画にご協力いただき、場所を提供していただく CCC 担当の秋田さんはじめ関係者の皆様に感謝申し上げます。

６．活動の様子

（文責：教育学部教育学科　２年　奥山智司）

# 平成 29 年度　倉陵祭模擬店　活動報告

## 1　目的

ボランティアルームは今年度も「第 55 回皇學館大学倉陵祭」にて模擬店を出店した。この活動は地域の方々や学生にもっとボランティアルームの存在を知ってもらう、ボランティアルームを身近に感じてもらう、ボランティアに興味を持ってもらいボランティアの参加者増加と参加促進を大きな目的としている。販売を行うだけでなく、ボランティアルームスタッフ同士の連携、コミュニケーションを通してスタッフ間の結束力を向上させるものとした。売り上げの一部は『日本赤十字社』を通して被災地復興への支援金として寄付を行っている。

今年度も昨年度と同じように室内で販売することになり、2 日間という短い開催期間のためどのように工夫すれば利益をうまく出すことができるかが重要な課題となった。

## 2　活動内容

昨年度の倉陵祭では「ホットサンド」を販売した。ホットサンドは 520 個売れ 104,100 円の利益から 70,000 円日本赤十字社に寄付を行った。今年度も出店可能場所の数が出店希望団体よりも少なかったため室内販売となった。昨年度と同様に電気を使用する調理器具に限られる。そのため家庭でも手軽に調理できるような販売品目に制限された。倉陵祭担当者やスタッフ同士で話し合いが行われ、まず室内という条件でも販売が可能なものを順に挙げていくことになった。身近なものでホットプレート、たこ焼き器、昨年度使用したホットサンドメーカーなどが候補として上がったが、使用できる電力を考慮し手軽であるホットプレートにし、最終的にポップコーンを販売することに決定した。

続いて味を何種類にするかを話し合った。塩、キャラメル、シナモン、カレー、ストロベリー、コンソメ、チョコレートなど様々な味の候補が挙げられた。この 8 種類の中で人気のありそうなものや学生の好みに合わせて「塩味」と「キャラメル味」の 2 種類が選ばれた。材料であるポップコーンの種を大量に購入しなければならないが、インターネット通販でコップも付属した調理セットを購入したほうが安価に収まった。今回は前回のように 1 日の販売が終わるごとに買い出しに行く必要もないこともメリットであった。さらに販売終了後の片付けや、振り分けられたゴミ箱の回収などを分担して行った。

開催日：　10 月 28 日（土）9:00～販売開始
～18:00 販売終了（ゴミ回収・片づけ）
～19:30 撤収

10 月 29 日（日）9:00～販売開始

～18:00 販売終了（ゴミ回収・片づけ）
～19:30 撤収

場所　：皇學館大学内・721 教室
内容　：倉陵祭で模擬店を出店し、ポップコーンの販売の利益の 7 割を寄付する。
販売値段：1 カップにつき塩味 100 円/キャラメル味 120 円
販売者：ボランティアルームスタッフ
責任担当者：山口遼、杉下真子、中根くるみ、岡崎なみき、奥梨紗、森菜々子、片山智貴

3　活動報告

今年度は台風 22 号の影響により 1 日間だけの販売となったことは規定外の出来事となった。1 年生 1 名・2 年生 1 名・3 年生 9 名・4 年生 4 名が調理や販売などを行った。時間ごとにシフト表を作成し、販売役と調理役が交互に交代するようにした。まず販売するポップコーンの概要に移る。

まず 2 台用意したホットプレートに調理セットのオイルを軽く溶かし、トウモロコシの種を入れていく。ある程度弾けてきたら蓋をし、すべて弾けるまで待つ。その後はキャラメルパウダーを適量かけてカップに入れて販売した。今回も販売場所は室内であり、天候も悪かったため休憩室として利用される方が多かった。

収支の詳細については表図に示す。

支出

| | |
|---|---|
| ポップコーン調理セット | 11,258 円 |
| 合計金額 | 11,258 円 |

収入

| | |
|---|---|
| 売り上げ金 | 7,320 円 |
| 合計金額 | 7,320 円 |

| | |
|---|---|
| 支出 | 11,258 円 |
| 収入 | 7,320 円 |
| 純利益 | −3,938 円 |

4　スタッフからの意見

・一日しか販売ができず売り上げが伸びなかった
・天候、販売日数を考慮して材料を揃えるべきだった。

・試作を行うのが遅すぎて本番でうまく味付けできなかった。
・室内で販売していたこともあり休憩スペースになっていたのは良かった。
・道具、材料はそろっていたが調理工程が雑に感じられた。

5　反省

今年度も倉陵祭での模擬店を出店することになったが、一番の目的であった収入の 7 割を日本赤十字社に寄付をすることはできなかった。これは今年度の大きな問題である。

今年度も室内での販売となった。去年度の反省点を活かし、宣伝に使用する看板を多く作成し学生だけでなく一般の方にも宣伝することが出来た。材料の調達方法、販売スタッフの参加人数、販売利益の寄付をできなかったなど今年度も多くの問題点が挙げられた。

まず材料の調達方法だが試作をもっと事前から行えば、インターネット通販で購入するよりも安価で業務用スーパーなどで材料をそろえられるかもしれなかった。さらに天気により販売スタッフの参加人数が少なかったため、宣伝に回る人数が少ない。さらに販売への士気が下がってしまっていた。そのため販売数も伸びず日本赤十字社の寄付をすることもできなかった。

倉陵祭は開催前の数日から台風の影響が予想されていた。開催 1 日目は午前中から天候が悪くあまり客足も伸びていなかった。ポップコーンの作成方法も試作の際に使用した材料とは異なる物であったため、うまく味付けができなかった。本番で使用した材料はインターネット通販で購入したセットであり、ココナッツオイル、粉末キャラメルパウダーにより調理を行った。

しかし、一般的にイメージするキャラメルポップコーンとはメープルシロップを使用する。試作では弾けたポップコーンにメープルシロップをかけ、さらにオーブントースターでカリッとなるまで温める。試作で成功していたため材料を業務用スーパーでそろえて買うべきだったが、本番までに間に合わないと予想したため早めに購入していた。注文を受ける際にも数に誤りが無いように、ノートなどに注文状況を把握できるようにすればよかったのではないだろうか。

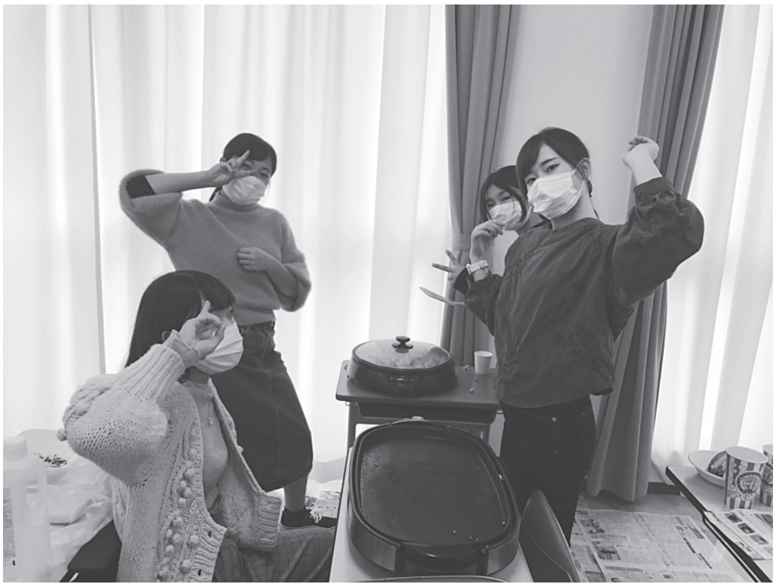
今回の大きな問題点は模擬店を担当していたメンバーの連携不足であるとも感じられた。毎年の反省点で「初動の遅さ」や「連携不足」が目立つが今年度は特に連携不足が大きかった。来年度の倉陵祭ではこの反省点を活かし、まず担当のグループで細かく仕事を分担しながら決めていくべきではないだろうか。来年度の倉陵祭ではきちんと利益を出し、被災地への募金が行えるように努力していきたい。

6　活動風景

教室の飾り付け

キャラメル味のポップコーン

学生スタッフの様子



【文責：文学部国文学科３年　山口遼】

# 伊勢市ボランティアセンターフェスティバル　活動報告

１　目的

平成 28 年度から、伊勢市社会福祉協議会（以下「伊勢社協」という）が新しいイベントを開催した。その具体的なイベント内容を議論する実行委員会に、ボランティアルームスタッフが入らせていただくことになり、代表で２年生の杉木が選ばれた。

イベントの目的は、近年多様化しているボランティア活動の情報を提供し、支え合いの意識を高め、市民がボランティア活動へ積極的参加を図ることである。このイベントはボランティアルームを含む、伊勢市内の多くのボランティア団体にとって日々の活動を知っていただけるだけでなく、団体同士の新たなつながりができる貴重な機会になると考えられた。

２　活動内容

7 月より実行委員会の会議が始動し、イベントの骨組みは伊勢社協が決め委員が肉付けしていくという流れであった。イベントのコンセプトは「知る　見る　体感　交流」に決定し、イベントのスローガンは伊勢社協の登録団体から募った中から「みんなでひとつになろう　ボランティアの輪！」が選ばれた。

イベントには伊勢市ボランティアセンターの登録団体（31 団体）がブースを出展することになった。さらに、ステージで 11 団体が実演し日々の活動等を紹介することになった。

また、伊勢市ボランティアセンター活動報告会、地震体験車、茶の湯、自衛隊、バルーンアート体験スペース、子ども向けのスタンプラリー等を行うことに決定した。

日時や詳しい内容は以下の通りである。

開催日：平成 29 年 11 月 26 日（日）　 9：45～14：15
場所：伊勢市ハートプラザみその
主催：伊勢市社会福祉協議会
内容：１）オープニングセレモニー（和太鼓伊勢天翔）
２）ボランティアセンター登録団体ブース出展
３）ステージ実演
４）地域貢献企業ブース
５）関係団体ブース出展
６）茶の湯体験
７）地震体験
８）災害救助車両

９）三重県歯科衛生士会ブース
１０）ＦＣ．伊勢志摩ブース
１１）バルーンアート体験
１２）三重ボランティア基金ブース
１３）羽毛プロジェクトブース
１４）キャラクター大集合
１５）伊勢市ボランティアセンター活動報告会
１６）ボラセンＧＯ！！（体験型スタンプラリー）
１７）フードコート・やさしいまち伊勢プロジェクトブース
１８）ポップコーン無料配布
１９）就労支援施設販売コーナー
２０）閉会セレモニー（皇學館大学吹奏楽団）

３　活動報告

イベントの来場者数は、パンフレットの配布実績等から 3,407 人と発表されたが、実際にはそれ以上の来場者があったように感じた。来場者の年齢層は幅広く、会場は大いに賑わった。

ボランティアルームからは、ブースでの接客役とイベント運営係としてスタッフ 6 人が参加し、一般学生も 8 人参加した。イベントの運営係として主に任された仕事としては、スタンプラリーの用紙の配布、ボランティアルームの説明、総合案内所での対応、バルーンアート体験のブース等であった。

当日の参加の前にボランティアセンターフェスティバルの実行委員会が数回行われ、そこではパンフレットの構成やスタンプラリーの子ども達の回り方などを協議した。
具体的な内容まで協議したため、円滑に進むことができた。

「ボラセンＧＯ！！」と題したスタンプラリーでは、小学校の子ども達が体験しながら福祉を学んでいくことができるブースが決定された。

ボランティアルームが出展したブースに興味を持ってくれる人は多く、地元伊勢市での認知度向上に大きな手応えを感じた。また、参加団体から声をかけて頂くことも多く、今後の活動につながる可能性も感じることができた。

４　まとめ

伊勢社協が主催しているイベントの実行委員会にボランティアルームスタッフを参加させていただいたこと、そしてブース出展をさせていただいたことは、ボランティアルームにとって大きな一歩になったことは間違いない。ボランティアルームは、伊勢市にあるにも関わらず伊勢市での認知度が低く、それを問題視してきた。今回のイベントを通し、伊勢市に住む人々に直接自分たちを紹介し、伊勢市で活躍している団体とつながるきっかけ

をつくることができた。その上、参加したスタッフがほとんど同級生であった為、今後の活動における良い経験となった。このイベントでボランティアルームは、今まで関わりの無かったボランティア団体と交流し新しい刺激を受け、次世代を自分たちが担っていかなければならないという成長のきっかけを得ることができた。

　ボランティアルームの力はまだまだであるが、地域のために自分たちが力を発揮できるよう、若者の先頭に立ち人々の輪を広げるサポートをすることこそがボランティアルームの使命であると改めて感じたイベントであった。

5　活動の様子

（文責：現代日本社会学部現代日本社会学科２年　杉木真子）

# CCCとコラボ in 伊勢　活動報告

１．目的

　この企画は今年が初めてである。毎年、愛知淑徳大学のコミュニティ・コラボレーションセンター通称CCC（以下、CCC）さんの担当の方と愛知淑徳大学で交流会を行っているので伊勢でもやりたいというお話をいただいていた。これが実現した形である。

　目的は大きく分けて３つある。

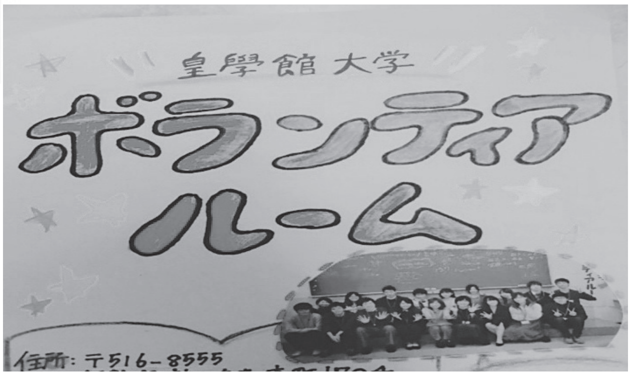
　１つ目は、いつもは私たちがCCCさんのお部屋を見学し、掲示の仕方やボランティアを提供する空間としてたくさんのことを学ばせていただいている。今回はCCCさんのスタッフがボランティアルームを見学することで、CCCさんがもし何か活かせることがあればそれを活かしていただくことになる。またボランティアを紹介するということを普段から行っている他大学の学生からの視点で何か気付くことがあれば教えていただきたいと思う。お互いのボランティアの空間を高め合うということができるだろう。

　２つ目は、年度末であるので各自の今年の活動を振り返りながらボランティアについて考える。意見を共有し他の人の意見を聞くことで、自分の意見を深めたり、新たなボランティアルームの見方や考え方を得たいということである。

　３つ目は、毎年お世話になっているCCCの方々に皇學館大学の学生である我々の生活している街の雰囲気なども感じていただきたいということである。

　以上の目的を踏まえたうえで、学生の交流という機会を作り、ボランティアのことだけでなく三重県と愛知県の方言や地元に関する話など積極的な交流をして、各参加者が多くの気付きを得られればと思い計画した。

（1）



２．活動内容

毎年、夏ごろにボランティアルームは CCC さんと交流会を行ってきた。その時に「ぜひ次は伊勢でやりたい！」というお話をいただいていた。今回それが実現する運びとなった。

CCC さんから「せっかくだから伊勢神宮にも行きたい！」という声をいただいていた。そこで午前中は交流会、午後から伊勢神宮参拝という計画をした。昼食はおかげ横丁で食べるという計画もあった。しかし、食事の時間もコミュニケーションの場として大事な時間と考えた。CCC さんとボランティアルームスタッフが皆で食べられるのは人数や時間帯の観点から場所の確保が難しいと感じ、南大門さんが確実ではないかと考えた。

伊勢神宮への移動は公共交通機関も考えられたが、人数が多いため車での移動とした。以下は当日の内容である。

日時：平成 30 年 2 月 27 日（火）　10：00～16：00

場所：皇學館大学　511 教室　ボランティアルーム　南大門　伊勢神宮

内容：　10：00　交流会開始

・自己紹介

・テーマについて個人の考えを発表
　テーマ：「あなたが思うボランティアとは」

・テーマについてグループで話し合い考えを発表
　テーマ：「ボランティアの魅力を伝えるキャッチコピー」

・ボランティアルーム見学

12：00　昼食（南大門）

13：00　伊勢神宮参拝、おかげ横丁散策

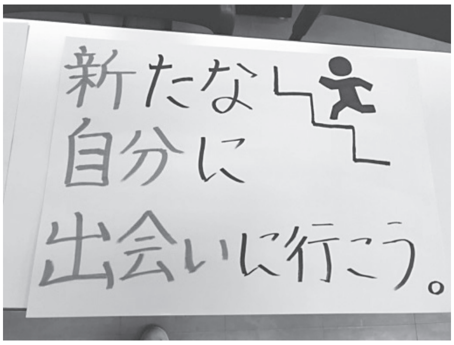
16：00　伊勢神宮内宮前にて　解散

３．活動報告

今回の参加者はボランティアルームから 6 名と山際さん、CCC さんからは学生が 9 名とスタッフ 2 名の計 18 名で行われた。当初は 10 時から始める予定であったが、CCC さんに到着が 30 分ほど遅れてしまったので、10：30 からのスタートとなった。交流会でのテーマの設定に関しては、以前からボランティアルームの中でも「ボランティアとはそもそも何なのか」ということが話題になっており、今年度の年間反省会でも同じような題材が取り上げられた。今回は社会福祉協議会やバリアフリーの職員の方々ではなく、同じ学生同士で話し合うことで、学生目線の意見や発想が出ることを狙った。個人で考えてもらったあと、ボランティアルームスタッフと CCC さんのスタッフの合同チームを 3 グループ作り、グループ内で話し合いながらキャッチコピーを考えた。ボランティアを一般学生に紹介することは私たちの大事な役目の 1 つである。各自が直前に考えたボランティアについてふまえたうえで、一般学生にボランティアの魅力をどのように伝えるか、キャッチコピーという形式で考えてもらった。開始時間が遅くなってしまったため当初の予定よりも話し合いの時間が短くなってしまったが、その中でも各グループでとても素晴らしいものを発表することができた。以下は、そのグループ活動において出た意見とそれを書いたものである。

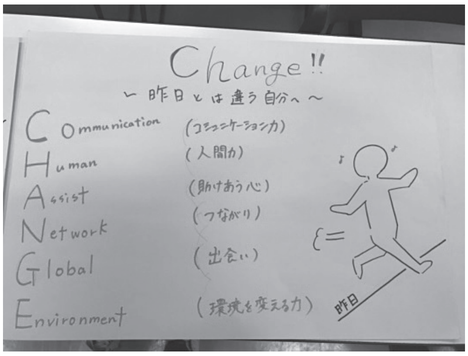
○テーマ：「ボランティアの魅力を伝えるキャッチコピー」

グループ①：新たな自分に出会いに行こう。

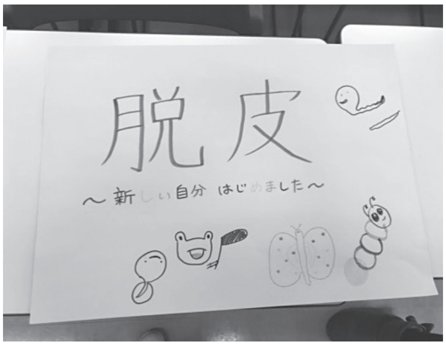



グループ②：Change!!〜昨日とは違う自分〜

| | |
|---|---|
| Communication | （コミュニケーション力） |
| Human | （人間力） |
| Assist | （助け合う心） |
| Network | （つながり） |
| Global | （出会い） |
| Environment | （環境を変える力） |



グループ③：脱皮～新しい自分　始めました～




４．参加者の感想

〇ボランティアルームスタッフから

・メンバー内の共有不足があった

・グループワークがポスター作成のようになっていて盛り上がった

・運営視点でボランティアを考え直す機会があった

・お昼ごはんの量が少し多かった。

〇CCC さんより

・ワークも伊勢観光もとっても楽しかった

・他の大学のボランティアセンターにお邪魔させてもらうことがないので新しい発見があり、楽しかった。

・ひとりひとりの違った想いを聞いて、そうだよね！！や、たしかに！！と色んな発見があったり、みんなの熱い想いに感動した。

５．反省・感想

何度も述べているが、毎年愛知淑徳大学さんで行われている企画が伊勢で行われた。これまでにはない試みで、参加者がそれぞれ今までの交流会とは違う感想や思いを抱いてくれていればと思う。反省点としては当日の駐車場の誘導の担当を置かなかったことである。当日は車の見える所に駐車の証明書を置いてもらわなければいけない。よって車が門から入ってすぐの所で声をかけてその証明書をおいてもらい、駐車スペースへと案内するべきであった。当日は 511 教室の中での動きのみを考えてしまった。

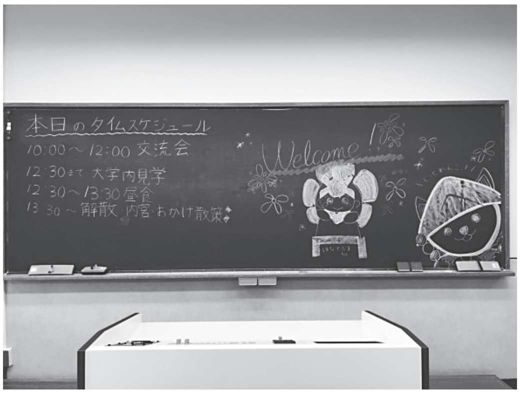
昼食に関しては南大門さんで頂いた。参加者の中にカレーが食べられない人がいたことは事前に参加者に聞くなどして認知しておく必要があった。

伊勢神宮では内宮の本殿を参拝し、その後おかげ横丁を散策した。ここに関してはおかげ横丁散策の時間をゆっくりと回れるような時間配分にすればよかったと感じた。全体的に微弱ではあるが時間的に押していた。その影響がおかげ横丁の散策の時間の短さに繋がってしまったと考えている。もう少し余裕のある時間配分で全体の日程を組むべきであった。しかし、CCC の方々の中には初めて来たという人や、小さい頃に来た以来という人もいて楽しんでくれていたように思う。余談であるが名古屋市から皇學館大学に通って

もう３年が経とうとしている私は、この時に改めて名古屋に住む人間からしたら伊勢は観光地であり普通なら毎日通うような距離ではないのだ、ということが分かり自分の距離の感覚が麻痺していることにも気付けたのでとてもよかった。

６．活動の様子

〇交流会




711 教室の黒板

個人テーマの発表中

グループ①の相談中？

グループ②の発表中

グループ③の発表中

CCC さんがボランティアルームを探検中

○昼食（南大門さん）と伊勢神宮＆おかげ横丁

昼食（南大門さんにて）

おかげ横丁散策中

お土産購入中（へんば餅前にて）

伊勢神宮宇治橋前にて

〈出典〉

（１）http://www.aasa.ac.jp/institution/ccc/より

【文責：教育学部教育学科　２年　奥山 智司】

# 季刊誌 活動報告

1　目的

季刊誌の発行には学生用のものと外部用のものを作成し、どちらも情報発信を目的としている。

皇學館大学の学生用季刊誌にはボランティア情報や参加した学生の声を伝え、ボランティアへの参加を促すことを目的とし、募集中のボランティアを一覧にして掲載している。

社会福祉協議会等を通じ配布している外部向け季刊誌には、ボランティアルームの存在・活動を知ってもらえるような内容にしている。加えて、外部の方々にボランティアの依頼をお願いすることを目的として製作した。また、ボランティア予告、報告の他、依頼を募る文面も載せるようにしている。

2　活動内容

平成 29 年度は ①学生:夏・秋の 2 号 ②外部:夏・冬の 2 号をそれぞれ発行した。

1)　学生用は夏号(6 月発行)・秋号(11 月発行)共に、終了したボランティアの報告、参加者の声、募集予告または募集中のボランティアの紹介(一覧)を内容に製作した。

秋号には上記のものに加え、おすすめのボランティア、倉陵祭についても掲載した。

2)　外部用は夏号(6 月発行)・冬号(12 月発行)には参加したボランティアの報告とこれから参加するボランティアを掲載、表紙・裏表紙は皇學館大学ボランティアルームの紹介とボランティアルーム通信(季刊誌)の説明、ボランティアルームへのアクセスを統一して記載した。

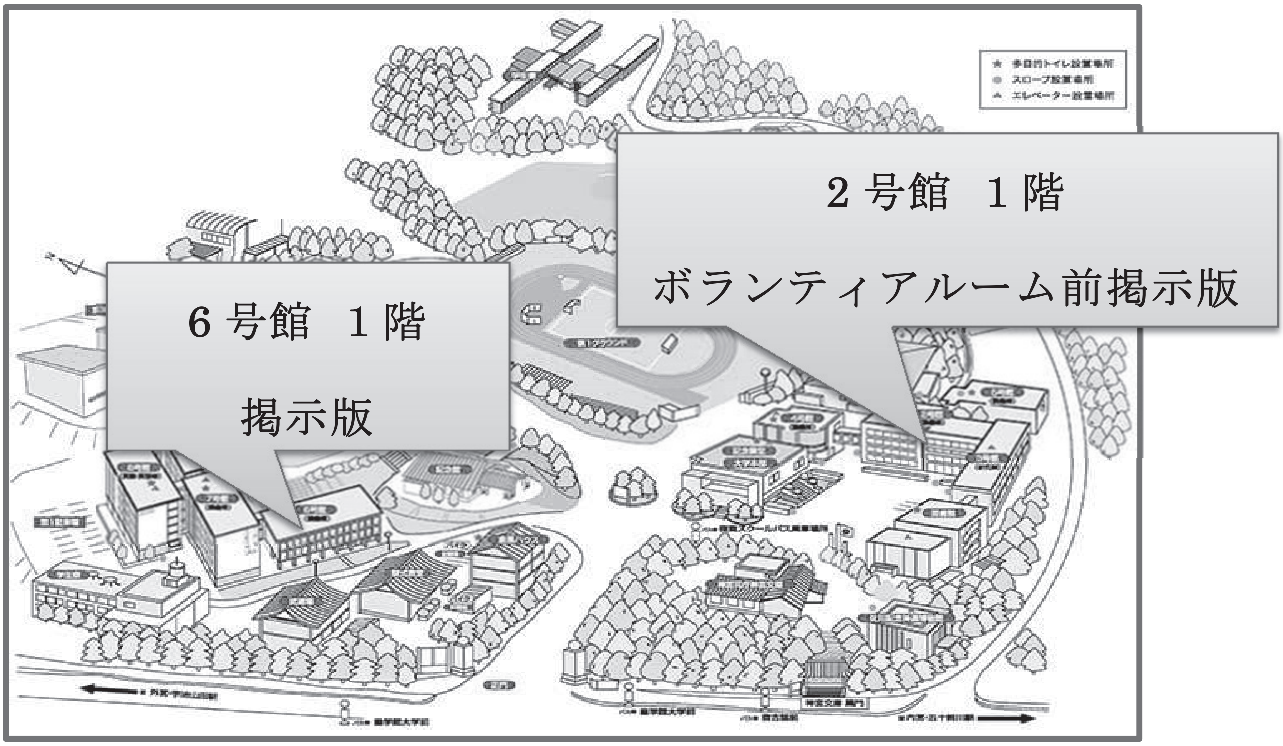
また、ボランティアフェスティバルなどのイベント用季刊誌の作成も行った。

3　活動報告

| 学生用 | 発行月 | 発行部数 | 配布数 | 残部 |
|---|---|---|---|---|
| 夏号 | 6月 | 30部 | 26部 | 4部 |
| 秋号 | 11月 | 30部 | 24部 | 6部 |

今年度は学生用、外部用と各季節で担当を振り分け各自製作をした。内容としては、昨年年度の季刊誌を参考にボランティア情報を中心に、参加者の声や募集中のボランティア紹介、我々が行っている情報発信方法を掲載した。

また、冊子に使用していた紙を厚紙から薄紙に変更した。主な理由として、印刷時間の短縮やコストの削減のためである。




学生用は全部で 30 部用意。配布方法としては、10 部ずつボランティアルーム前の掲示板と6 号館前の2か所に配置。残り 10 部は補充用予備として保管した。

外部用は 40 部用意。三重県社会福祉協議会、松阪市社会福祉協議会、伊勢市社会福祉協議会、バリアフリーセンターを訪れた方々の手にも届くよう各組織に 10 部ずつ配置させていただいた。

4　反省と課題

平成 29 年度は上級生を中心に担当や製作時期を決定し、計画を立てた。計画段階でスケジュールが合わずメンバーの意見は主に SNS を使用して行った。

また、各担当に振り分けるといった形は、以前の課題とされていたページごとにレイアウトや雰囲気が異なるなどと言ったことが起きず、各自の 1 年間のうち忙しいであろう時期と季刊誌製作の時期を調整することが可能なため、チームのスケジュールに合わせて製作することが出来た。体制としては良かったと感じている。

しかしその中で見えてきた問題・課題が大きく分けて 3 つあった。

1)引き継ぎについて

季刊誌の製作自体が平成 26 年度からで、年ごとに改善、工夫していくため“このやり方でなくてはならない“という決まりはない。しかしメンバーの一部は目的意識が薄く、昨年度を参考に作っているだけ、という義務感で製作していた。また、そのことに気づくこともなければ疑

問に思うこともなかった。

担当を決める話し合いの際に目的を再確認し、目的意識をはっきりさせ、課題の見直しや手に取ってくれる人のことを考えて製作すべきだった。

また、製作した季刊誌を発行するための手続きの過程でわからないことがある場合、経験のあるメンバーに教えを乞うと「ボランティアルームをサポートしてくれている事務員の方がやってくれたのでわからない」という返答があったことで自分たちの仕事の範囲、手続き、その過程の引継ぎが不十分であったことが発覚した。

数日かかる手続きは事務員の方がやってくれているという事が 2，3 年の間に当たり前となってしまい、事務員の方から指摘されるまで気づかなかった。

この際に最初から最後までしっかりと自分たち学生だけでできるよう製作から発効までのマニュアルを作り、目に見える形で今までの改善点や各自の考え、工夫にいたるまで残していきたい。

2）情報共有について

冊子ごとに担当が違うため製作スピートや内容が異なる事に加え、各自でやっているためメンバー内で担当者が今どういった状況にあるのかが全く分からなかった。また、完成したデータを共有のUSBに保存されていないという問題も起きた。メンバー内で集まる事が難しく、話し合うことも少なかったのが原因か、互いにサポートしようと考えてはいるものの相談ができない空気であった。実際学生用冬号は情報共有からなる問題が原因で発行することができなかった。

組織内の空気づくり、コミュニケーションの重要性を思い知った。

3）記載内容について

ボランティア情報の発信が目的の 1 つでもあるため参加したボランティアやおすすめのボランティアの予告、宣伝は例年通り記載した。しかし学生用と外部用に分けているため、それぞれのニーズは違ってくる。実際周りからいただいた意見として、参加者の声が知りたい、おすすめのボランティアが知りたい、ボランティアのジャンル別参加率が知りたい等がある。参加者の声はどちらの内容でも需要があるが、ジャンル別の参加率は学生からの需要はあまりないように感じる。

また、意見をいただいてもデータを扱う内容は時間がかかってしまうため載せられないこともある。普段からデータの整理を行っていれば時間の短縮にはなるだろう。担当以外のメンバー全員の協力が必要だ。

5　まとめ

平成 29 年度は学生用の発行部数を 10 部予備として増やして 30 部発行した。予定していた通りの 20 部を大きく上回り、夏号は 26 部配布できていることから、来年度も 30 部発行

したいと思う。また、内容を見ていると、以前の反省でも挙がっていたが各季刊誌を見ているとレイアウトに個性が出ている。学生用は少しにぎやかに、外部用は少しシンプルにすることを意識しているため最初に作る夏号に少し似せることを意識すればこの課題も解消できるのではないかと考えている。

今年度は反省と課題となる事柄が多かったと感じている。反省が多いことはあまり喜ばしいことではないが、反省すべき点の根本を考えていくと原因の大半がコミュニケーション不足と考えられる。話し合う事、互いにちゃんと向き合いサポートし合うことが大切だと、来年度の教訓にしていきたい。

【現代日本社会学部現代日本社会学科　3年　大田　芙侑】

# ３．アンケート報告

# 平成 29 年度メール登録者対象アンケート報告

## 1　目的

今年度もボランティアルームの活動に対するアンケート調査を行った。アンケートを行う目的としては、普段のコーディネート業務の中では聞くことのできない学生の生の声を匿名性のあるアンケートという形で抽出できるからである。今年は昨年に比べて、メール登録者数が 2 割ほど減ってしまっている。登録者が減ることは、ボランティアに関心を寄せる方たちが減少していると言える。これ以上減らさないためにも、今あるメール登録者からボランティアに対する意識、コーディネート業務への感想を聞き出すことに重点を置いた質問を用意した。スタッフはこのアンケート結果を学生からの本音として真摯に受け止め、今後のコーディネート業務の指標として活かしていかなくてはならない。

## 2　活動内容

昨年度に引き続き、メール配信によるアンケート調査とした。この方法は回答数こそ任意であるため少なくはなるが、興味を持つ方たちの意見が如実に表れ、しっかりと考えている学生の意見が反映されやすくなるという利点がある。また前々回からメール配信でアンケート調査を行っているため、定着しつつあると考えられることから、十分な回答数も得られるとのねらいを持って、今年度もメール配信で行うことにした。

またアンケートを行う目的であるが前述の通り、今年はメール登録者の減少が目立ったため、本学の学生たちがボランティアに何を求めているのか、ボランティアルームとはどうあるべきなのかを判断することに重点を置いた。アンケートの内容は以下の通りである。

開催日：1 月 9 日～1 月 18 日
対象者：メール登録者 308 名
方法：Google フォームを活用し、アンケートの作成を行い、ボランティアルームのメール登録者に対してメール配信を行った。Google フォームを活用した目的は携帯電話・スマートフォンを利用しながら、いつでも手軽にアンケートに答えることができるためである。
アンケート内容：アンケートの項目は以下の 9 項目

① 学年
② 学科所属先
③ ボランティア情報の入手方法
④ ボランティアルームを通してのボランティア参加率
⑤ 独自でのボランティア参加率
⑥ ボランティアに参加する意義

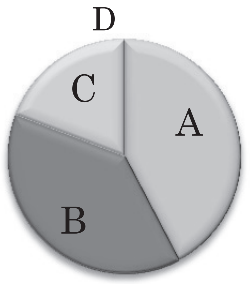
⑦　参加したボランティアの感想
⑧　月別ボランティアの認知度
⑨　ボランティアルームに対する意見

3　結果報告

メール登録者 308 人に対してアンケートを行ったところ、得られた回答数は 26 名であった。これはメール登録者の約 8%になる。昨年度は約 12%だったのに対して、今年度は 1 割にも届いていない。しかし、答えてくださった学生は皆ボランティアに対して熱心な方であるとして、ボランティアルームをより良くしていくための貴重な意見とみて考えていく必要がある。なお回答数についての反省は、「4. 反省・まとめ」に記している。質問は全部で 9 項目である。順に結果を示していく。

①　あなたの学年を選んでください。

| | |
|---|---|
| A : 1 年 | 11 名 |
| B : 2 年 | 10 名 |
| C : 3 年 | 5 名 |
| D : 4 年 | 0 名 |

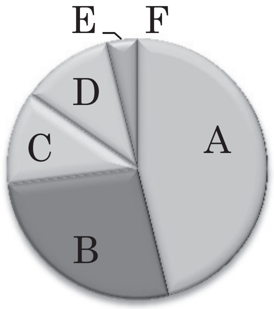



この結果から「1 年生」と「2 年生」で、8 割を占めていることが分かる。アンケートの対象者であるメール登録者 308 名のうち 1 年生が 129 名、2 年生が 113 名で、こちらも 8 割を占めているため、こうなることは当然と言える。1, 2 年生が多いと考えられる理由は、自由に使える時間が多くあるということだろう。そういった空き時間をボランティア活動に充てようとする学生が、メール登録を行っていると見える。しかし、登録してもその時間を遊びやアルバイトなどに費やす学生も多いため、そのような学生がボランティアに参加しようと思える仕組み作りが今後の課題となる。

一方で、「3，4 年生」は 1，2 年生に比べ、少ない回答数であった。考えられる理由は、就活や卒論があるなどして空き時間をボランティア活動に充てようとする余裕がなかったからだろう。しかし、彼らの中には 1，2 年生の時に、前述した通り遊びに費やす学生、一回参加して満足した学生などが、もう活動しないだろうと登録をやめてしまう学生が存在すると思われる。従って、3，4 年生の利用者を増やすにも 1，2 年生のうちにどれだけボランティアに参加しようと思わせることが必要となってくる。

② あなたの学科を選んでください。

| | |
|---|---|
| A：教育 | 12名 |
| B：現代日本社会 | 7名 |
| C：国史 | 3名 |
| D：コミュニケーション | 3名 |
| E：国文 | 1名 |
| F：神道 | 0名 |

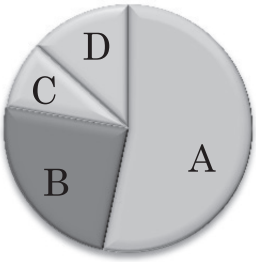



「教育学科」が一番多く、次いで「現代日本社会学科」が続き、この二学科で全体の 7 割を占める結果となった。ボランティアルームでは、依頼を受けた際に分かりやすく分類わけをして、子ども、地域、福祉の三つに分けている。このために先生を目指す教育学科が子ども系、地域社会、社会福祉を学ぶ現代日本社会学科が地域系、福祉系とそれぞれの需要をピンポイントで満たしていることからこの結果となったと考えられる。

一方で、「神道学科」は0名となっている。これは、上記の分類わけにあてはまるものが無かったと考えられる。しかし、依頼を受けるボランティアの中には、神宮を案内するボランティアなど神道に関するものもある。それらを神道学科の学生に宣伝して、利用者を増やしていきたい。また「国史学科」、「コミュニケーション学科」、「国文学科」については、これらの学科に所属する者の中にも先生を目指す学生がいるので、子ども系を宣伝していきたい。

③ ボランティア情報をどこで手に入れていますか？※複数選択可

| | |
|---|---|
| A：メール配信 | 24名 |
| B：掲示板 | 11名 |
| C：SNS | 4名 |
| D：知り合いから | 6名 |



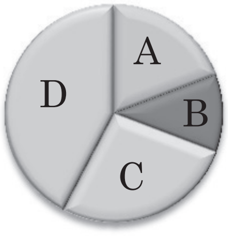

例年通り、「メール配信」が一番多い結果となった。手元にある携帯電話・スマートフォン一つで、いつでも気軽にボランティア情報を確認できることが人気の理由と考えられる。また、ただボランティア情報を送るだけではなく、日常会話のような一文を付け加えるなどして、メール登録者の思わず目を引く工夫も行っている。今後も登録者の目を引くための工夫を心がけ、印象付けをねらっていきたい。「SNS」も利用者こそ結果からは少ないと分かるが、携帯電話・スマートフォンを利用している学生は多いので、メール登録者以外

を対象として今後も随時更新していきたい。

そして、「掲示板」での情報の取得を行っている学生も多いことが分かった。ボランティアルームでは、現在大学内でルーム前の掲示板と 6 号館 1 階にて掲示を行っている。この二箇所は学生の行き来が多く、目に留まりやすいという利点があるので、こちらも登録者以外の学生の目に止まるような掲示業務を行っていきたい。また、「知り合いから」情報を手に入れている学生もいた。ルームスタッフも率先して、友達やゼミの学生などにボランティア情報を広めていく努力が必要である。

④　この 1 年でボランティアルームを通して、何回ボランティアに参加しましたか？

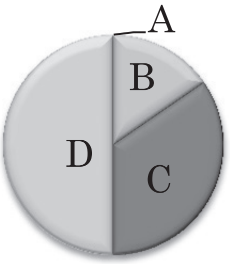
| | |
|---|---|
| A：5 回以上 | 5 名 |
| B：3，4 回 | 3 名 |
| C：1，2 回 | 7 名 |
| D：参加していない | 11 名 |




昨年度は「1，2 回」と答えた学生が一番多かったのに対して、今年度は「参加していない」が一番多い結果となってしまった。この結果は、アンケートの回答を得られたボランティアに熱心であると考えられる学生のみなため、それ以外を含めると参加していない学生はもっと増えると予想される。前者はそういった比較的熱心な学生が、参加していないと答えているところを見ると、興味はあるが参加しようとは思えない阻害分子があると考えられる。行きたいボランティアがない、勇気が出ないなどの理由に対し、ボランティアルームとしては参加できるよう企画を用意するなどして、適材適所にコーディネートしていかねばならない。一方で後者は、まずボランティアに目を向けさせる必要がある。前述した通り掲示板や SNS、校内での呼びかけも有効と言える。しかし、そういった人たちがボランティアを行わない理由とは何だろうか。そこを明らかにするために、ボランティアルームを通さず、独自でボランティアに参加した学生を調べた。結果は次の通りである。

⑤　この 1 年でボランティアルームを通さず､独自で何回ボランティアに参加しましたか？

| | |
|---|---|
| A：5 回以上 | 0 名 |
| B：3，4 回 | 4 名 |
| C：1，2 回 | 9 名 |
| D：参加していない | 13 名 |



こちらも「参加していない」と答えた学生が一番多かった。しかし、参加したという学生を合わせると、参加していない学生と同数で半分を占めていることが分かった。このことから回答者以外も合わせるとなると、独自で参加する学生はさらに多く存在していることが予想される。本学ではボランティアルームの他にも、所属する学科やゼミ、大学から募集されるボランティア、他のボランティア系のサークルなどでボランティアを行うことができる。加えて地域課題解決を体験的に学べ、活動時間が成績にも入る CLL（地(知)の拠点整備事業）といった活動もある。学生はボランティアルームを通さずとも、こういった活動が存在するため、それらで満足していると思われる。

ボランティアルームの利用者を増やすためには、ボランティアルームにしかできないことを見出し、それらと差別化を図る必要があると考える。ボランティアルームは学生にコーディネートする役目があり、扱うボランティアの件数、種類の豊富さについては一番多く、一人ひとりに合うボランティアは必ず見つかるはずである。その部分を遂行し、オンリーワンなコーディネート業務を行っていきたい。

⑥　あなたにとってボランティアとは何ですか？※複数選択可

こちらを答えてもらう上で、あらかじめ考えられる項目を 10 個用意しておき、そこから選んでもらうようにした。加えて自由回答欄を付けた。

| | |
|---|---|
| 社会貢献 | 19 名 |
| 他者との交流 | 21 名 |
| 自己 PR の材料 | 15 名 |
| 自身のスキルアップ | 16 名 |
| ストレス発散 | 2 名 |
| 技術や知識の提供 | 2 名 |
| 町おこし | 4 名 |
| 奉仕活動 | 10 名 |
| 普段やらないことができる | 17 名 |
| 暇つぶし | 3 名 |
| 自由回答 | 1 名 |

結果は右の表の通りである。「社会貢献」、「他者との交流」、「奉仕活動」が多いことから、ボランティアと言えば人のために行うこと、人との関わり合いを連想する学生が多いと分かった。一方で、「普段やらないことができる」、「自己 PR の材料」、「自身のスキルアップ」も多いことから、自分のために行う傾向も見られる。ただ「ストレス発散」、「暇つぶし」は少ないため自分本位で考えて行う学生はそこまでおらず、人のため、自分のためと答えた両者ともにボランティアとはプラスの面として考えていることが分かった。よってこの結果を今後のコーディネート業務に、プラスの一言を付け加えるなどして役立てていきたい。また、自由回答欄には「気分転換」と答えた学生が 1 名いたが、それ以外は 10 項目に収まったので、挙げた項目は大方の予想通りであった。

⑦　参加したボランティアはどうでしたか？※複数選択可

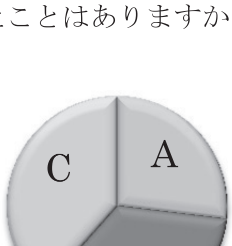
| | |
|---|---|
| 新しいことを学ぶことができた | 11 名 |
| 人とのつながりを体験できた | 13 名 |
| 自分に自信がついた | 5 名 |
| 地域系が特によかった | 6 名 |
| 福祉系が特によかった | 2 名 |
| 子ども系が特によかった | 7 名 |
| 個人で集中して活動ができた | 1 名 |
| また同じボランティアに参加したい | 7 名 |
| 一緒に参加してくれる学生を増やしてほしい | 3 名 |
| 事前にボランティアについての説明がほしかった | 1 名 |
| 特に得るものはなかった | 0 名 |
| 自由回答 | 1 名 |

こちらもあらかじめ考えられる項目を 11 個用意しておき、そこから選んでもらうようにした。加えて自由回答欄を付けた。結果は「新しいことを学ぶことができた」、「人とのつながりを体験できた」が多いことから、問 6 のボランティアと言えば人との関わり合い、自身のスキルを磨くためと答えた学生の意見が反映されていることが分かった。

一方で前述した通り、ボランティアルームではボランティアを分類別に分けているが、「地域系が特によかった」、「子ども系が特によかった」と答えた学生に比べ、「福祉系が特によかった」が少ないということが分かった。福祉と聞くと特別な知識が必要、敷居が高いイメージを与えてしまっていると考えられる。ボランティアルームとしては、ちょこっと福祉体験のような企画を用意し、福祉をもっと身近に感じてもらえるように努力していきたい。また、自由回答欄には「参加したことがない」と答えた学生が一人いた。この質問自体が参加した学生に対するものであったため、ほかの質問とは違い 21 件の回答数となった。参加していない学生への配慮が無かったので、「参加していない」の項目も用意しておくべきであった。

⑧　毎月ルームスタッフが参加する、月別ボランティアに参加したことはありますか？

| | |
|---|---|
| A : 参加した | 7 名 |
| B : 参加していない | 9 名 |
| C : そのような活動があることは知らなかった | 10 名 |



月別ボランティアとは、ボランティアに興味はあるが一人では参加しづらい、不安であると感じる学生のために、毎月決めたボランティアにルームスタッフが一緒に参加し、そういった不安を取り除き、学生の参加率向上を目的とした企画であり、昨年から行っている。しかし、本当にこの企画が、学生の参加率向上に繋がっているのかと疑問に思ったため、調べることにした。昨年のアンケートでは、認知率を聞いたところ「知っている」、「知らない」で半々に分かれていたのに対し、今回の結果は、「そのような活動があることは知らなかった」が一番多く、次いで「参加していない」となった。加えて、これらはボランティアに熱心だと考えられるアンケート回答者の意見であるため、回答していない学生も合わせるとなると、この二つの項目はさらに多くなると予想される。

結果から、月別ボランティアの認知率はまだまだ低いことが分かった。しかし、それ以上に問題なのが参加率向上を目的とした企画であるのに、参加しようと思われていないところである。仮に認知率を上げたとしても参加しようと思われなければ意味がないので、この企画そのものの在り方を一度再確認する必要があるだろう。まずは、ボランティアを身近に感じてもらうと同時に、ルームスタッフもコーディネート業務などで、利用者と積極的にコミュニケーションを取り、この人たちとなら参加したいと思えるように、ボランティアルームを身近に感じてもらう必要があると考える。学生目線に立って、親しみやすいコーディネート業務を目指していきたい。

⑨　ボランティアルームに対する意見などがあればお願いします。

全部で5件の回答を得られた。順に紹介していく。

- 入りにくいからどうにかしてほしい

　去年のアンケートでもボランティアルームは入りにくい場所としての印象を持たれていた。今年度はその意見を踏まえルーム内の模様替えを行い、解放感を向上させてみたものの今回のアンケートでも同様の回答が来てしまった。利用者を増やすためにどのような企画を用意しようと、入りにくいという理由で利用者を失っては元も子もない。こちらの対策としては学生とはメールで繋がっているので、メールでやり取りができるような仕組みづくりを行えばよいと考える。何も無しに突然ボランティアルームに限らず、見知らぬ場所へ行くことは勇気が必要だろう。とはいえ事前に行きますとアポを取ってさえいれば、入りやすくなると考えられる。するとルームスタッフとしてもこの時間に誰が来るか分かるので、すばやくコーディネート業務に移ることができる。また学生はメールを利用する機会が増え、アンケートの回答者もそれに伴い増えるのではないだろうか。メールの活用について、今後検討していきたいと思う。

- 三重県全域のボランティアを掲載してほしい
- 四日市の方面のボランティア情報を教えてほしい

　依頼を受けるボランティアの中に、こういったものが無いわけではないが、その数

は多いとは言えない。こちらの対策としてはボランティアフェスティバルなどのボランティア団体が数多く居合わせる場にルームスタッフが参加し、ボランティアルームの認知度を上げて、依頼を受ける件数を増やしていくなどのルームスタッフが紹介もかねて、色々なボランティアに進んで参加していく必要があると考える。また色んなボランティアに参加することは、学生に対して自らのボランティア経験を話すことができ、コーディネート業務のさらなる向上がねらえる。

- ベルマークも集めてはいかがでしょうか

　ボランティアルームではペットボトルキャップを集めている。その活動を見てのことだと思われる。ベルマークも集めてみてはとのアドバイスを頂いた。今後、検討していきたいと思う。

- 頑張りましょう

　前述した通り、本学ではボランティアルームに限らず、様々な体験ができる学習支援が用意されている。その中でボランティアルームの利用者を増やすには、もっと存在意義を高めていかなくてはならない。ボランティアルームでしかできないことで、地位を確立し学生にアピールできるようこれからも頑張っていきたい。

4　反省・まとめ

　一昨年から始めたメール配信によるアンケート活動であるが、始まって以来その回答者数は下降の一途を辿っている。最初は回答数が低くとも回数を重ねることで定着し、増えていくと考えていたが、今年度の回答者はメール登録者の一割にも満たなかった。前述した通りこのメール配信は、任意であるため回答数こそ少なくはなるが、その分ボランティアに対して熱心な学生の意見が反映されやすくなるという利点がある。しかし、今回のようにあまりにも少なければ、回答に偏りが出てしまい正確な調査を行うことができなくなってしまう。これを改善するには、今までメールでの告知のみであったため、掲示板やSNSの活用、学内での声掛けを行う必要がある。そして前述したように、メールのさらなる活用を考え、利用する機会を増やしていくことで、回答者を増やすような取り組みも考えていきたい。また、以前のように手間はかかるが回答数は得られるアンケート配布・回収による方法も検討していきたい。

　同時に今年度は、メール登録者数も減ってしまっていた。こちらの原因は前述したようにボランティアルームを通さずとも本学では、ゼミやCLLなどを通して様々な活動を行うことができるので、学生はそれらで満足しているからではないかと思う。これからのコーディネート業務は、利用者を増やすためにそれらと差別化を図るか、それらの協力を得ることも必要だろう。ボランティアルームが学生にとってどうあるべきかを今一度再確認し、一歩ずつ前進していきたい。

【文責：現代日本社会学部２年　森谷俊介】

# 4. 資　　料

平成 29 年度　年間スケジュール

| 日　時 | 場　所 | 活動内容 |
|---|---|---|
| 4 月 19 日(水)<br>21 日(金)<br>24 日(月) | 512 教室　ボランティアルーム | HELLO ボランティア |
| 4 月 25 日(火) | 図書館 | 第 1 回全体ミーティング |
| 5 月 25 日(木) | 732 教室 | 第 2 回全体ミーティング |
| 5 月 27 日(土) | 711 教室 | Mini ボランティア体験 |
| 6 月 22 日(木) | 図書館 | 第 3 回全体ミーティング |
| 7 月 20 日(木) | 図書館 | 第 4 回全体ミーティング |
| 7 月 20 日(木)<br>24 日(月)<br>28 日(金) | 食堂前 | 九州豪雨災害支援金募金 |
| 8 月 8 日(火) | 711 教室　図画工作室 | ちょこっと福祉体験 |
| 8 月 11 日(金)<br>16 日(水)<br>22 日(火) | 松阪市徳和地区市民センター<br>松阪市社会福祉協議会 | サマースクール |
| 8 月 24 日(木) | 愛知淑徳大学 | 他大学視察 |
| 8 月 31 日(木) | 図書館 | 第 5 回全体ミーティング |
| 9 月 28 日(木) | 図書館 | 第 6 回全体ミーティング |
| 10 月 19 日(木) | 図書館 | 第 7 回全体ミーティング |
| 10 月 28 日(土)<br>29 日(日) | 722 教室 | 倉陵祭 |
| 11 月 5 日(日) | 介護付有料老人ホームくらたやま | 老人ホームで Let’s 文化祭 |
| 11 月 26 日(日) | 伊勢市ハートプラザみその | 伊勢市ボランティアフェスティバル |
| 11 月 30 日(木) | 図書館 | 第 8 回全体ミーティング |
| 12 月 21 日(木) | 511 教室 | 第 9 回全体ミーティング |
| 1 月 18 日(木) | 511 教室 | 第 10 回全体ミーティング |
| 2 月 8 日(木) | 711 教室 | 平成 29 年度年間反省会 |
| 2 月 27 日(火) | 511 教室<br>ボランティアルーム | CCC とコラボ in 伊勢 |
| 3 月 15 日(木) | 511 教室 | 第 11 回全体ミーティング |
| | | |

# 平成29年度　ボランティア募集一覧

| No. | ボランティア名 | 住所 | 場所 | 内容 | 日時 | 参加人数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 第40回松阪こどもまつり | 松阪市 | 中部台公園芝生広場 | 運営スタッフ業務のお手伝い | H29年度4月23日（日）<br>am8：00〜pm16：00 | 12人 |
| 2 | 第20回三重県障がい者スポーツ大会 | 津市 | 三重県身体障害者総合<br>福祉センターグラウンド | フライングディスク競技の補助 | H29年度5月12（金）<br>am13:00−16:00<br>13（土）10:00−15:30 | |
| 3 | 第10回城山れんげの里 | 津市 | 城山れんげの里 | 軽食販売・バザー等のスタッフ | H29年度5月20日（土）<br>am10:00−pm15:00 | 5人 |
| 4 | 横浜ゴム第24回ふれ愛まつり | 伊勢市 | 横浜ゴム三重工場構内 | 着ぐるみを着て子ども達との交流 | H29年度5月3日（水）<br>am9:30〜 | 6人 |
| 5 | 第21回ふれあい広場 | 伊勢市 | 二見老人福祉センター周辺 | ふれあいコーナー（バルーンアート・義援金活動・着ぐるみ） | H29年度5月21日（日）<br>am9:30〜pm13:30 | 6人 |
| 6 | プログラミング道場　CoderDojo | 伊勢市 | 伊勢市福祉健康センター | 運営の盛り上げ（子どもの話を聞いたり作品作りを見守る） | H29年度5月21日（日）<br>am13:00〜pm15:30 | |
| 7 | H29年度第6回東日本大震災<br>復興支援チャリティイベント | 多気郡 | 多気町民文化会館 | イベントでの募金受付・募金箱管理 | H29年度5月21日（日）<br>am11:00〜pm16:00 | 2人 |
| 8 | M祭！2017キッズ・アート・フェスティバル | 津市 | 三重県総合文化センター | イベント運営・設営手伝い | H29年度8月6日（日）<br>am10:00−pm16:00 | 4人 |
| 9 | 能楽のプログラム配り | 伊勢市 | 外宮せんぐう館前 | 能楽同好会のプログラム配り | H29年度5月3日（水）<br>am13:30〜pm15:00 | |
| 10 | 託児ボランティア | 伊勢市 | 伊勢市中央児童センター | 子どもの託児 | H29年度5月12日（金）<br>am10:00〜pm11:30 | 4人 |
| 11 | miniボランティア体験 | 伊勢市 | 皇學館大学711教室 | 手話講座・豆つかみなど | H29年度5月27日（土）<br>am13:00−16:00 | 27人<br>（1人欠席） |
| 12 | 2017三重県ふれあいスポレク祭 | 四日市市 | 四日市ドーム | レクリエーションゲームの補助等 | H29年度6月9日（金）<br>13:00−16:00<br>10日（土）8:30−16:00 | |
| 13 | ナンブフェスタボランティア | 伊勢市 | 南部自動車学校 | 着ぐるみを着てイベントの補助・写真撮影係 | H29年度5月28日（日）<br>11:00−14:00 | 5人 |
| 14 | れいんぼうカフェ | 伊勢市 | 生涯学習センター | 市長と結婚や出産、子育て、地域の仕事や暮らしについて話し合う | H29年度5月28日（日）<br>pm13:30〜 | |
| 15 | バレーボール（随時に変更） | 松阪市 | | 手話での挨拶や自己紹介、昼食つくり、コミュニケーションボードつくり、<br>手話ダンスを覚えてみんなで踊る | 毎週火曜金曜<br>pm19:00〜pm21:30 | 随時 |
| 16 | 松阪市児童発達支援地域スクール | 日にちにより変更 | 日にちによって異なる | 子どもと一緒にレクリエーションに参加・子ども達の補助 | H29年度7月24,27,28,31　8月<br>2,3,7,9,10,17,18,21,22,23,25,29 | 1人 |
| 17 | 生きるを学ぶボランティア | | 波瀬ゆり館 | 体験学習のお手伝い（あまごつかみ・川遊びの補助） | H29年度7月20日（木）〜8月5日（土） | 8人 |
| 18 | みんなで手話ダンス | 松阪市 | 松阪市福祉会館 | 手話での挨拶や自己紹介、昼食つくり、コミュニケーションボードつくり、<br>手話ダンスを覚えてみんなで踊る | H29年度8月4日（金）<br>am10:00〜pm15:00 | |
| 19 | ふれあい体育祭 | 松阪市 | ハートフルみくも<br>スポーツ文化センター | 障がいのある方と家族や機関、他のボランティア関係者が<br>ふれあい体育祭を通して交流・親睦を深める | H29年9月10日（日）<br>am9:00〜pm15:30（am08:00集合） | 5人 |
| 20 | ボランティアっていいよね！<br>みんなで語ろう！ | 松阪市 | 松阪市福祉会館 | 先輩ボランティアや同世代の仲間達とお茶を飲みながら意見交換し<br>氏郷まつりでのボランティア啓発ブース出店を皆で計画しよう！ | H29年8月28日(月)<br>pm13:00〜pm16:00 | |
| 21 | 第21回三重県障がい者スポーツ大会 | | 安濃中央公園（メインアリーナ） | バレーボールの競技進行に関する補助など | H29年7月8日（土）<br>am10:00〜pm15:30（集合am8:00集合） | |
| 22 | 夕涼み会ボランティアルーム | 度会郡 | 宮の里ミタスメモリアルホーム | 屋外での食事・花火・盆踊りなどの運営、介助、準備、片付け | H29年7月22日（土）<br>pm17:00〜pm19:30<br>（集合pm16:00 解散pm20:30） | |
| 23 | 勢田川七夕大そうじ | | 伊勢地区医師会東邦ガス駐車場<br>一色公園 | 堤防及び管理道路の草刈り、ゴミ拾い等 | H29年7月2日（日）<br>am8:00〜am9：00 | 2人 |
| 24 | 久居交通夏祭り | 津市 | 久居交通本社前 | 祭りの準備、出店の売り子、ステージイベント出演、<br>高齢者施設利用者様とのコミュニケーション | H29年8月26日（土）<br>am9：00〜pm20：00（時間は応相談） | 6人 |
| 25 | 三重大学学生ボランティア | | | 大紀町クリーン作戦 | 随時 | 随時 |
| 26 | CoderDojo　伊勢 | 伊勢市 | 伊勢市福祉健康センター | 子ども達の作品つくりを一緒に応援する | H29年8月5日（土）<br>am13:00〜pm16:30 | 1人 |
| 27 | サマーボランティアスクール | 日にちによって異なる | 11日徳和市民センター<br>16、22日松阪福祉協議会 | 様々なゲームブースの補助　子ども達のお菓子つくりのサポート | H29年8月11日（金）16日（水）22日（火）<br>am9:00〜pm16:00 | 35人 |
| 28 | 大紀町クリーン作戦 | | 大紀町　奥川河川敷 | 奥川岸の清掃 | H29年6月24日（土）<br>am8:00〜（2時間程度） | 3人 |
| 29 | 第15回車いすde伊勢神宮参拝プロジェクト | 鳥羽市 | 伊勢神宮内宮 | 伊勢神宮参拝での車いす持ち上げ、参加者とのお話 | H29年7月22日（土）<br>am8:00〜11:00 | |
| 30 | 明和町社協ふれあいボランティア | 多気郡 | 明和の里 | 縁日のお手伝い（ヨーヨー、輪投げ、ゲームの補助） | H29年8月26日（土）<br>pm4:00〜8:00 | 2人 |
| 31 | 夏休みボランティア | 日によって変更 | そんぽの家松阪・鯉屋旅館周辺・<br>向野園・こいしろの里 | 祭りでの出展の手伝い、利用者の介助 | H29年7月29（土）・30（日）、<br>8月5（土）・26（土）pm4:00〜 | 4人 |
| 32 | まいぶん祭り2017 | 松阪市 | 三重県埋蔵文化財センター | 勾玉・石包丁作り・火起こし体験・文化財すごろくなど主に小学生来場者の対応 | H29年8月22、23、24<br>am9:00〜pm4:00 | |
| 33 | ふれあい体育祭ボランティア | 松阪市 | ハートフルみくも<br>スポーツ文化センター | 運動会運営のサポート | H29年9月10日（日）<br>am9:00〜pm3:30 （集合am8:30 | 7人 |
| 34 | 明日へつなぐ・・・ボランティア | 伊勢市 | 伊勢市福祉健康センター | 視覚障がい者の方のガイドブック調理ボランティア、会場設営の手伝い | H29年7月30日（日）<br>am10:00〜pm3:00 （集合am9:00 | |
| 35 | 飲酒運転0を目指すリレーイベント | 日によって変更 | 日によって変更 | 飲酒運転の啓発ボランティア | H29年8月6、30、<br>10月4、15、 12月1、9 | |
| 36 | わくわく体験活動キャンプ | 多気郡 | 五桂池ふるさと村 | パターゴルフ・BBQ・飯ごう炊飯・レクリエ−ションなど<br>子ども達と1対1で一緒に活動する | H29年8月2日（水）<br>pm1:00〜3日9:30 | |
| 37 | サーチャレンジボランティア① | 日にちによって変更 | 日にちより変更 | 夏祭りを通して高齢者と触れ合う | H29年7月27、8月9、8月26日<br>pm15:00〜pm8:00ごろまで | 3人 |
| 38 | 外宮さんちびっこ博士グランプリ | | いせ市民活動センター | 子ども達と一緒に外宮さんを歩いてクイズ大会のサポート | H29年8月1日（火）<br>am9:00〜pm12:00頃 （集合am8:30 | |
| 39 | ちょこっと福祉体験 | 伊勢市 | 皇學館大学 | 福祉体験をする子どもたちのサポート | H29年8月8日（火）<br>pm1:00〜pm16:15 | 18人 |
| 40 | サマーチャレンジボランティア② | 四日市市 | 四日市市体育館 | 障がいのある子ども達と工作や料理作り | H29年7月24.28、31、<br>8月7、14、21、25<br>am9:30〜pm15:30 | |
| 41 | サマーチャレンジボランティア③ | 四日市市 | サロンよってこ家 | おもちゃや絵本を使って子ども達と触れ合う | H29年7月28、8月4、18、25、<br>9月1、 am9:30〜pm12:30 | |
| 42 | サウンドテーブルテニス | 四日市市 | ヘルスプラザ | サウンドテーブルテニスのサポート | H29年7月26日、8月25日<br>13:30〜16:00 | 3人 |
| 42② | ボッチャ | 四日市市 | 四日市市障がい者体育センター | ボッチャのサポート | H29年8月20日、9月3日<br>13:00〜16:00 | |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 43 | 交通安全フェスタ | 伊勢市 | イオンタウン伊勢ララパーク | 障がいのある方のサポート | H29年9月24日（日）<br>am10:00〜pm15:00 | 2人 |
| 45 | 多気天啓苑夏祭り盆踊りボランティア | 多気郡 | 多気天啓苑 | 老人ホームの入所者と一緒に踊る。 | H29年8月6日(日)<br>18:00〜20:00　集合17時 | |
| 46 | 多気児童館ボランティア | 多気郡 | 多気児童館　放課後児童クラブ | 子ども達と一緒に遊んだり準備等のお手伝い | H29年7月21日(金)〜8月31日(木)<br>の都合のいい日 | 2人 |
| 47 | 35周年福祉の社まつりボランティア | 度会郡 | 宮の里ミタスメモリアルホーム | 利用者とのお付き添い・食事の介助・模擬店などの手伝い・準備片付けなど | H29年10月29日（日）<br>am9:00〜17:00 | |
| 48 | スクールパートナー | 愛知県知多郡 | 7日東浦町勤労福祉館 | 子ども達に算数・数学の勉強のサポート | H29年8月7日 | |
| 48 | | 愛知県知多郡 | 8〜9日東浦町文化センター | | H29年8月8日(火)〜9日(水) | |
| 48 | | 愛知県知多郡 | 23〜26日東浦町立片葩小学校 | | H29年8月23日(水)〜26日(土) | |
| 49 | 鳥羽駅ボランティア | 鳥羽市 | 近鉄鳥羽駅周辺 | | H29年8月12日(土)、13日(日)、14日(月) | |
| 50 | 夏季はっぴぃサークル | 玉城町 | 玉城町福祉会館 | 子ども達とお菓子作り、川遊び | H29年8月1日(火)、8日（火）、<br>20日（日）、29日（火）9:30〜15:30 | 2人 |
| 51 | 納涼祭 | 伊勢市 | 三重済美学院 | 利用者の方のサポート | H29年8月5日(土)<br>pm6:00〜pm8:40 （集合pm4:30） | |
| 52 | みつばちと私たちの未来 | 伊勢市 | 伊勢市シティープラザ | 会場の受付・片付け | H29年8月22日(火)<br>pm6:00〜pm8:00 | |
| 53 | 九州北部豪雨災害義援金募金募集活動 | | ①おかげ横丁<br>②福祉健康センター | 募金活動 | ①H29年7月22日(土)<br>am10:00〜（1時間程度）<br>②7月30日（日）am10:00〜<br>（1時間程度） | 1人 |
| 54 | 大井手夏まつり | 四日市市 | 大井手公園 | 夏祭りの屋台・ゲーム運営等補助・かき氷、やきそば、<br>フランクフルトの補助・輪投げ、スーパーボールすくい等の運営補助 | H29年7月29日(土) | |
| 55 | きらきらくらぶ2017 | 多気郡 | 多気社会福祉協議会　天啓の里 | 身体障害、療育、精神保健福祉手帳を所持している。<br>小学生以上の児童と一緒に遊ぶ。 | H29年8月29日(火)<br>am10:00〜pm15:00 | 2人 |
| 56 | 聖母の家まつり | | | | H | |
| 57 | ふれあいデイキャンプ | 鈴鹿市 | 鈴鹿青少年の森 | BBQやスイカわり、ミニゲームなどをして知的障害児と一緒にデイキャンプを行う。 | H29年8月24日(木)am8:30〜pm4:00 | |
| 58 | 伊勢市ボランティアフェスティバル | 伊勢市 | ハートプラザみその | 当日イベント運営及び片付け | H29年11月26日(日)am9:00〜pm16:00 | 14人 |
| 59 | しらさぎ園夏祭り | 鈴鹿市 | 地子町公園 | 施設利用者の引率・ゲームブースの手伝い | H29年8月5日(土)pm4:00〜pm8:00 | |
| 60 | 着ぐるみボランティア | 御園町 | ハートプラザみその | 着ぐるみに入り、赤い羽根共同募金のPRを一緒に行う。<br>（募金協力者にティッシュ配布など） | H29年8月6日(日) | |
| 61 | ハトの巣・チャレンジサマー | 伊勢市 | 皇學館大学　7号館5階 | 現代・昔の遊び、夏祭り、無料カフェ、学習支援 | H29年8月21日(月)22日(火) | |
| 62 | ふれあい祭り　ボランティア | 松阪市 | 嬉野カトリックの家 | 祭のサポート | H29年9月9日(土)<br>pm4:00〜pm8:00 | |
| 63 | 就労支援B型くすのきボランティア | 多気町 | 就労支援B型くすのき | 軽作業及び見守り等 | H29年8月17日(木)25日(金)<br>am8:30〜pm4:30 | |
| 64 | 第20回三重県障がい者スポーツ大会<br>陸上競技 | 伊勢市 | 三重交通Gスポーツの杜伊勢 | 2日前日準備、3日大会当日 陸上競技の進行に関する補助等 | H29年11月2日(木)pm1:00〜pm4:00、<br>3日（金）am10:00〜pm3:30(集合am8:00) | |
| 65 | 第18回きずな・つつじの里　秋祭り | 津市 | 特別擁護老人ホームきずな・<br>介護老人保健施設つつじの里 | 準備、模擬店の補助、後片付け等 | H29年10月21日(土)am11:30〜pm4:00 | 1人 |
| 66 | 託児ボランティア | 伊勢市 | 伊勢市中央児童センター | 母親向け講座(ママネイルケア講座)の参加者お子様<br>(生後6ヵ月〜未就園児)の託児 | H29年9月20日(水)、29日(金)<br>am10:00〜am11:30 (集合am9:45) | |
| 67 | 伊勢まつりでかっぱちゃん音頭を踊ろう！！ | | 第三銀行から伊勢市駅 | かっぱちゃん音頭を踊りパレード(伊勢まつり)に参加 | H29年10月7日(土)<br>pm15:00〜16:00 | |
| 68 | さくら保育園運動会支援ボランティア | 松阪市 | さくら保育園 | 運動会の支援 | H29年10月7日(土)<br>am8:15〜12:00 | 1人 |
| 69 | 第20回三重県障がい者スポーツ大会<br>ボウリング | 津市 | 津グランドボウル | ボウリング競技(知的障がいのある方)に参加される選手の支援・競技補助等 | H29年11月25日(土)午前の部<br>受付(9:00)　9:30〜12:30<br>午後の部　(13:00)13:30〜16:30 | |
| 70 | 三重県障がい者スポーツフェスティバル2017 | 津市 | 三重県身体障害者総合福祉センター | パラリンピック出場選手等によるパネルディスカッション・<br>障がい者スポーツ体験・陸上競技用車いす試乗等 | H29年10月9日(月・祝)<br>10:00〜15:00 | |
| 71 | 第18回河崎商人市ボランティア | | 伊勢河崎商人館と河崎本通り<br>及び河崎川の駅周辺 | スタンプラリーの設営と運営　河崎商人市の案内、伊勢河崎商人館の受付など | H29年10月22日（日）<br>8:30〜16:00 | 2人 |
| 72 | 奈佐の浜海岸清掃ボランティア | | 鳥羽市佐田浜定期船乗り場 | 奈佐の浜海岸清掃、意見交流会 | H29年10月8日（日）<br>9:30〜16:00 | |
| 73 | 宮川流域いっせいクリーン作戦 | 伊勢市 | 宮リバー度会パーク下河川敷 | 宮リバー度会パーク下河川敷一帯の清掃 | H29年10月22日（日）<br>8:00〜9:00 | 2人 |
| 74 | 日産労連クリスマスチャリティー | 松阪市 | クラギ文化ホール<br>（松阪市民文化会館） | 参加する介助を必要とする方の誘導・移動支援・排泄支援補助会の準備など | H29年11月26日（日）<br>9:20〜17:00 | |
| 75 | 川越2017　ふれあい祭り | 三重郡川越町 | 川越町総合センター | 様々な企画ブースの手伝い・運営スタッフとしての支援 | H29年11月3日（金）<br>8:45〜15:30 | |
| 76 | ふれあい広場 | 鈴鹿市 | しらさぎ園 | 施設利用者さんの引率ボランティア | H29年10月7日（土）<br>10:00〜15:00 | |
| 77 | ふくふく祭り | 鈴鹿市 | デイサービスきらめき | 老人、障がい者、児童施設が中心となって行うイベント運営の補助 | H29年10月29日（日）<br>8:30〜15:00 | |
| 78 | 第16回　車いすde伊勢神宮参拝プロジェクト | | 伊勢神宮内宮 | 伊勢神宮内宮参道での車いす介助、正宮前階段での車いす持ち上げなど | H29年11月3日（金）<br>7:30〜11:00 | |
| 79 | くらたやま老人ホームで文化祭 | 伊勢市 | 有料老人ホームくらたやま | 施設利用者の方と一緒にフォトフレームの製作や部活発表見学を通じての交流 | H29年11月5日（日）<br>13:00〜17:00 | 8人 |
| 80 | 託児ボランティア | 伊勢市 | 伊勢市中央児童センター | 生後6ヵ月〜未就園児の託児 | H29年10月18日（水）・10月27日（金）<br>10:30〜11:30 | |
| 81 | 二見ハロウィンまつり | 伊勢市 | 伊勢市二見町茶屋地区<br>（二見生涯学習センター） | 子ども達が仮装して、高齢者の家を訪問し、お菓子を貰って廻る活動の補助 | H29年10月22日(日)<br>am10:00〜pm0:00 | 3人 |
| 82 | 第20回三重県障がい者<br>スポーツ大会・ボウリング | 津市 | 津グランドボウル | ボーリングの進行に関する補助等 | H29年11月25日(土)午前の部<br>受付(9:00)　9:30〜12:30<br>午後の部　(13:00)13:30〜16:30 | |
| 83 | 第2回中島学区ふれあいフェスティバル | 伊勢市 | 宮川堤公園 | お祭りの補助 | H29年11月12日（日）10:00〜<br>雨天の場合19日(日) | |
| 84 | 台風21号被害援助 | | | | | |
| 85 | 松阪市福祉フェスティバル | 松阪市 | クラギ文化会館 | ミニ福祉体験コーナー、缶バッチづくりコーナー、<br>値域カルタ体験コーナー、バルーンコーナー、屋台村コーナー等の補助スタッフ | H29年12月17日(日) | 11人 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 86 | うれしのこどもクラブ | 松阪市 | 嬉野社会福祉センター | 嬉野地区の小学校に通う1年生～6年生の子供たちと<br>一緒に遊んだり宿題を見たりします | H30年1月27日（土）･2月10日（土）<br>24日（土） 3月10日（土）･24日（土） | 4人 |
| 87 | さくら保育園　生活発表会 | 松阪市 | 松阪クラギ文化ホール | 園児の衣装付けの手伝い、会場整備の手伝い | H30年1月13日（土）<br>8：30～12：30 | 2人 |
| 88 | スポーツレクリエーション | 松阪市 | 三重県営松阪野球場 | ゆるキャラ対応、各物品販売のフォロー | H30年3月4日（日）<br>9：00～15：00 | 3人 |
| 89 | こいしろの里　クリスマス会 | 松阪市 | こいしろの里 | クリスマス会の装飾、知的障がい者の利用者と共に行事を盛り上げる | H29年12月16日（土）<br>13：00～20：00 | |
| 90 | 第20回三重県障がい者スポーツ大会･卓球 | 津市 | 三重県身体障害者<br>総合福祉センター体育館 | 卓球競技の進行に関する補助等 | H30年1月13日（土）<br>10:00～16:00(集合時間　8:30) | |
| 91 | 白浜海岸清掃ボランティア | 志摩市 | 志摩市阿児町国府白浜海岸一帯 | 国府白浜海岸一帯の清掃活動 | H29年12月17日（日）<br>集合時間6：50～解散8:30 | |
| 92 | 御薗ボランティアまつり | 伊勢市 | ハートプラザみその | 着ぐるみを着て活動･見守り | H30年1月28日（日）<br>10：00～14：00 | 2人 |
| 93 | スポーツレクリエーションフェスティバル | 松阪市 | 三重県営松阪野球場 | 準備･ゆるきゃらの対応･各物品販売のフォロー･後片付け | H30年3月4日（日）<br>9：00～15：00 | |
| 94 | ライブスペース伊っ勢の！ | 伊勢市 | 伊勢市生涯学習センターいせとぴあ | イベント運営･設営手伝い | H30年1月7日（日）<br>12：30～16：30 | 2人 |
| 96 | 託児ボランティア | 福祉健康センター3階 | 中央児童センター | どんぐり帽子つくりの補助 | H30年2月8･9日（木･金）<br>10：00～11：30 | |
| 97 | ふれあいレクリエーション | 多気郡明和町 | 明和町中央公民館 | 小さいお子さんからお年寄り、車いすをご利用の方まで気軽に楽しめる<br>レクリエーション（サイコロゲーム、輪投げ、ストックアウトの他、<br>目の不自由な人が楽しめるスポーツ等々）や、イベントの補助。 | H30年1月21日〈日）<br>13:00～15:00 | 4人 |
| 98 | 手話サロン | 松阪市 | 徳和地区市民センター | 聴覚障がい者との交流･バルーンづくり | H30年2月3日（土）<br>13：00～15：30 | |
| 99 | ボランティアパワーアップ研修 | 松阪市 | 飯南産業文化センター | ボランティア研修会参加、防災食つくり、昼食を食べながらの交流 | H30年3月10日（土）<br>10：00～14：00 | |
| 100 | 車いすde伊勢神宮参拝プロジェクトin外宮 | 伊勢市 | いせシティプラザ | 外宮参道での車いすの介助･参拝者との交流 | H30年3月24日（土）<br>7：30～12：30 | 2人 |
| 101 | CoderDojo　プログラミング教室 | 伊勢市 | 伊勢市福祉健康センター | 活動風景の写真撮影や受付作業など　小中学生とパソコンを用いたゲーム作成 | H30年1月28日（日）<br>13:00～16:00 | |
| 102 | 東海北陸肢体不自由児者ボランティア | 志摩市 | 伊勢志摩ロイヤルホテル | 子供の託児、会場の案内 | H30年6月2日（土）<br>12:30～17:30 | |
| 103 | 三重県警大学生ボランティア | | 各活動によって変動 | 少年の立ち直り支援活動･非行防止･健全育成活動に関する諸活動を<br>スポーツや農業･調理などの幅広い活動より行います! | H30年4月～H31年3月31日 | |
| 104 | H29年度松阪市児童発達支援<br>地域スクール事業 | | 嬉野社会福祉センター･<br>徳和地区市民センター･<br>ハートフルみくも | | H30年2月25日（日）･3月11日（日）･<br>3月17日（土） 8：50～16：00 | |
| 105 | 伊勢市国際交流フェスティバル | 伊勢市 | 伊勢市ハートプラザみその | 「伊勢市国際交流フェスティバル」当日の運営業務 | H30年3月4日（日）<br>9：00～17：00 | |
| 106 | 人形劇オタマジャクシボランティア | 伊勢市 | 尾崎咢堂記念館 | 劇の補助 | H30年2月25日（日）<br>9：00～17：00 | |
| 107 | 志摩ロードパーティハーフマラソン | 志摩市 | 志摩スペイン村周辺 | コースでの給水･応援　選手受付 | H30年4月15日（日）<br>13：30～18：30 | |
| 108 | 志摩ロードパーティバリアフリーボランティア | 志摩市 | 志摩スペイン村周辺 | 参加者の補助、10kmハーフマラソン併走 | H30年4月15日（日）<br>8:30～ | |
| 109 | 福祉健康センターフェスティバル | 伊勢市 | 伊勢市福祉健康センター | 着ぐるみ･喫茶コーナー･受付･会場案内･ｽﾃｰｼﾞ設置など | H30年3月3日〈土）<br>9:00～15:30 | |
| 110 | 平成30年度身体障害者デイサービス交流会 | 伊勢市 | 伊勢市福祉健康センター | 交流会の参加者と一緒に楽しむ･見守り･介助 | H30年3月27日（火）<br>13:00～15:30 | 4人 |

| 平成 29 年度　ボランティアルームスタッフ一覧 | | | |
|---|---|---|---|
| No. | 所　属 | 学　年 | 名　前 |
| 1 | 文学部コミュニケーション学科 | 4 年 | 河口　比加理 |
| 2 | 文学部国文学科 | 3 年 | 山口　遼 |
| 3 | | | 上野　寛登 |
| 4 | 文学部国史学科 | | 伊藤　駿介 |
| 5 | 文学部コミュニケーション学科 | | 川口　真奈 |
| 6 | 文学部神道学科 | | 田垣内　利晃 |
| 7 | 教育学部教育学科 | | 横山　有弥 |
| 8 | | | 田畑　奈那子 |
| 9 | | | 千葉　星佳 |
| 10 | | | 林　佳奈 |
| 11 | 現代日本社会学部現代日本社会学科 | | 辻村　大河 |
| 12 | | | 吉田　裕也 |
| 13 | 文学部国文学科 | 2 年 | 小林　真亜利 |
| 14 | | | 森　菜々子 |
| 15 | 文学部国史学科 | | 松下　翠里 |
| 16 | 文学部コミュニケーション学科 | | 水谷　祐哉 |
| 17 | 教育学部教育学科 | | 奥山　智司 |
| 18 | | | 岡崎　なみき |
| 19 | 現代日本社会学部現代日本社会学科 | | 杉木　真子 |
| 20 | | | 中根　くるみ |
| 21 | | | 大田　芙侑 |
| 22 | | | 森谷　俊介 |
| 23 | | | 奥　梨沙 |
| 24 | | | 高田　玲志 |
| 25 | | | 片山　智貴 |
| 26 | | | 村林　寛隆 |
| 27 | 文学部国史学科 | 1 年 | 渡辺　楓 |
| 28 | 教育学部教育学科 | | 曽和　夕華 |
| 29 | 現代日本社会学部現代日本社会学科 | | 山川　廣太郎 |
| 30 | | | 才戸　俊祐 |
| 31 | | | 中西　正樹 |